

2022年度
履修の手引・授業概要
【18カリ】



国際武道大学 大学院
武道・スポーツ研究科

履修の手引 目次

| | |
|--------------------------------|---|
| 武道・スポーツ研究科の設置趣旨 | 1 |
| 研究科の教育内容と研究指導 | 1 |
| カリキュラム構成と履修及び研究指導の方法 | 2 |
| 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー） | 3 |
| 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー） | 3 |
| 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー） | 3 |
| 課程修了要件 | 5 |
| 学位論文及び特定課題研究の審査 | 6 |
| 最終試験 | 6 |
| 学位の授与 | 6 |
| 教育職員免許状の取得 | 6 |
| 授業科目一覧 | 7 |
| 授業概要 | 8 |

【武道・スポーツ研究科の設置趣旨】

国際武道大学は、体育学部には武道学科と体育学科からなる大学として、1984年開学した。創立の理念は、武道精神を通じて武道・スポーツの分野から国際人を養成し、新時代を担う人材を育成することである。この理念の基に開学以来、武道・スポーツの分野での教育・研究に全力をあげて取り組んできた。

この間、社会はゆとりと豊かさを実感できる人間らしい生活を大切にす社会へと大きく変化し、国民一人ひとりの生活の質が重要視される時代へと変化した。このため人々には、生涯にわたる自己実現のための活力のあるライフスタイルの確立が求められ、人々がスポーツや健康づくりに求める内容も多様化し、高度化してきた。

このような変化に対応するために、新しい視点から武道・スポーツを研究し、高度な専門的知識を持った人材の育成が必要となった。つまり、国際化の中での日本の立場は一層重要なものとなり、今まで以上に国や地域の文化の重要性を再確認することが求められている。

このことは、我が国の伝統文化である武道のもつ意味も単なる運動文化ではなく、それ以上の意味合いをもったものでなければいけないことを示唆するものであり、西洋スポーツとは異なる武道の独自性を自覚し、国際社会へアプローチを可能とする高度な専門知識を持った人材育成の必要性を示している。

また、武道の文化に対する視点の変化と武道文化に対する関心が国内外で高まってきたなか、学校教育の分野でも学習指導要領で“格技”が“武道”へと名称が替わるなどの変化があり、武道やスポーツの社会的背景や文化性をより深く探求し、時代に対応した高度な教育を実践できる人材が求められるようになった。

このような社会的・国際的・教育的など多くの分野から多様な対応が求められる武道・スポーツの諸課題や諸問題に対し、より高度な判断基準からアプローチできる専門的職業人の育成が本研究科を設立した狙いである。

【研究科の教育内容と研究指導】

武道・スポーツ研究科の目的は、多くの分野から求められる武道・スポーツの諸課題や諸問題に対し、より高度な判断基準から対応できる国際人の育成及びより高度な専門性を有した職業人の育成である。

このためには、現代あるいは近未来における武道・スポーツの相応しいあり方や健康の捉え方について理解していなければならない。つまり人間の健康は、動物一般に通じる健康を土台に置きながらも、人間独自のものとして捉えていかなければならない。すなわち、それは自然を変え、社会を変え、自分自身を変え、そして人生を享受するという人間独自の活動ができるような身体的、精神的あるいは社会的な状態のことであると言える。そして、人間的な健康を維持・促進するための基本事項として、『伝統・文化及び社会との関わり』『生涯にわたる質の高い生活の獲得』及び『生物又はヒトとしての視点』の3つのワードがあげられる。また、武道・スポーツの分野においては、それらを指導の場面でいかに展開するかが重要となる。

そこで、本研究科では、「武道・スポーツ文化領域」「健康・スポーツ科学領域」「武道・スポーツ指導領域」の3つの学修領域を設定し、相互に関連性を持たせつつ幅広く学問を追及できるようにした。

【カリキュラム構成と履修及び研究指導の方法】

武道・スポーツ研究科のカリキュラムは、必修科目を含む「共通科目」、3つの領域科目群からなる「専門科目」、応用・実践的な狙いをもつ「演習・指導科目」、研究計画に応じた専門領域の基礎知識や方法を学ぶ「研究基礎科目」、修士論文あるいは特別課題研究の執筆指導を行なう「研究指導科目」から構成されている。必修科目では、3つの領域科目群を相互にリンケージさせ、カリキュラム全体の位置付けと性格、更には研究テーマの設定とそれを発展させるための基本的な考え方を提供する。

学生の履修及び研究指導は以下の方法によって行う。

入学時に各学生の研究指導教員を決める。

研究指導教員は、学生の受講すべき専門領域科目及び関連する他の領域科目の履修等、教育面の指導にあたるとともに、必要な相談に応じる。学生は、「共通科目」の必修科目「武道・スポーツ特講Ⅰ」及び「武道・スポーツ特講Ⅱ」において、武道・スポーツ研究の全体像を理解し、更に様々な場面で活用できるプレゼンテーションについて学修する。

「専門科目」では、研究したいテーマに関する具体的な知識や方法を学修するとともに、他の領域に設けられた関連する科目を履修し、更に知識を広げ深める。

「演習・指導科目」では、研究したいテーマに関連する応用実践力を育成するために、実践の場における各種の活動を、複数の担当教員と共に構築しつつ学修を進める。

「武道・スポーツ特別研究Ⅰ」及び「武道・スポーツ特別研究Ⅱ」においては、研究指導教員から基礎的な研究能力を養う知識や方法を学ぶ。

「武道・スポーツ特別研究Ⅲ」及び「武道・スポーツ特別研究Ⅳ」では、より高度な研究の進め方を学び、論文作成へと進む。

なお、研究指導教員は、論文作成に必要な資料の収集や実験の指導をこの間に行い、学生はその成果を定期的に報告し、討論によって研究能力を高めて、論文に結実させる。

また、研究指導教員を補佐・協力するものとして、他の教員に研究指導協力を委嘱することができる。

【大学院研究科の修了認定方針、教育課程編成・実施方針及び入学者受入方針】

(1) 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）

武道・スポーツ研究科は、武道、体育及びスポーツの分野において、高度な専門的知識や実践能力を有し、優れた研究・開発能力を身につけ、豊かな創造性を発揮することができる専門職業人を養成します。この課程を修了し、以下の知識・能力を有すると認められる者に修了を認定し学位を授与します。

- ① 国際社会・地域社会の発展に寄与することができる。
- ② 武道、体育及びスポーツにおける高度で専門的な学術の理論及び応用力を有している。
- ③ コミュニケーション能力、リーダーシップ、チャレンジ精神を持ち、広く社会に寄与することができる。
- ④ 専門分野で修得した知識や技能に基づき、科学的・学問的な視点から事象を捉え、新たな課題を発見・解決し、未来に向かって創造的知見を発信できる能力を有している。

(2) 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）

武道、体育及びスポーツの分野において、高度な専門的知識を形成する能力を養い、種々の事象に対応できる実践的能力を発揮することにより、社会を豊かにすることができる人材を育成するため以下の教育課程の編成・実施方針に基づきカリキュラムを編成し実施します。

- ① 基幹科目を設置し、国際社会・地域社会の一員として、倫理的・社会的能力、創造力及び判断力等を養うための知識、経験を育みます。
- ② 総合的・学際的視点とともに高度で専門的な知識を持った、知識基盤社会を支える知的な素養のある人材を育成するため、武道、体育及びスポーツに関する専門領域を適切に区分し体系化を図るとともに、領域を横断的に学修できるカリキュラムを構築します。
- ③ 国内外の多様な社会の要請に的確に応えるための高度な専門職業人養成の視点から、実践的応用力を身につけさせるカリキュラムを構築します。
- ④ 自らの設定した研究テーマについて、指導教員のもとで研究指導を受け、学位論文を作成するために「特別研究」を配置します。
- ⑤ 高い専門性とともに幅広い視野を備え、専門分野の枠にとらわれない独創性・創造性を持った人材を養成する観点から、複数の教員が論文作成等の研究指導を行う指導体制を構築します。

(3) 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

武道、体育及びスポーツの分野で学修した高度な専門性を活かして、社会に貢献しようとする意欲に満ちた者

I. 武道・スポーツ研究科の求める学生像

- ① 武道、体育及びスポーツの理論と実践を通じ、より高度な専門知識や技能を修得しようとする者
- ② 武道、体育及びスポーツに関する諸概念について、文化、歴史、健康、教育などの様々な側面から探究し、武道・スポーツの普及・発展に寄与していく意欲と能力を持つ者
- ③ 国際的な視野と感覚を持ち、健康・スポーツ科学に関する高い専門知識を活かし、人々の健康・体力の保持増進を推進し、社会を豊かにしようとする意欲と能力を有する者
- ④ 武道、体育及びスポーツに関する高度な知識や技能、論理的思考力を有し、武道、体育及びスポーツの指導・教育に国内外を問わず貢献しようとする意欲と能力を有する者

II. 入学者選抜の基本方針

① 一般入試

大学院で専門教育を学ぶ者としての基礎学力を身につけており、総合的な知識・判断力を備え、意欲的な学修態度を持つ者を対象とした入試制度。学力試験として英語と専門科目を課し、あわせて専門分野及び将来の研究テーマに関する口述試験を実施し総合的に判定する。

② 社会人入試

高度専門職業人や研究者を目指して向学心に燃える社会人で、明確な目的意識と学修意欲を持つ者を対象とした入試制度。小論文の他、口述試験を課し、基礎学力、論理的思考能力及び問題解決能力等を総合的に判定する。

③ 外国人留学生入試

日本の武道・スポーツ文化を理解し、高度専門職業人や研究者を目指して明確な目的意識と学修意欲を持つ外国人留学生を対象とした入試制度。専門科目及び口述試験を課し、基礎学力、論理的思考能力及び問題解決能力等を総合的に判定する。

【課程修了要件】

修了要件の在学年数は2年を標準とする。単位の修得は、共通科目4単位、専門科目14単位、研究基礎科目および研究指導科目8単位の計26単位以上修得し、研究に関連する科目を含め合計30単位以上を必要とし、かつ研究上必要な指導を受け修士論文又は特定課題研究の審査及び最終試験に合格しなければならない。

修了要件一覧表

| 区分 | 授業科目 | 単位 | 必選別 | 履修方法 | | | | |
|---------|------------------|------------------|------|--------------------|------------|--------------------|------------|------|
| | | | | 大学院修了に係る単位 | | 教員免許状資格取得に係る単位 | | |
| 共通科目 | 武道・スポーツ特講Ⅰ | 2 | 必修 | 4単位 必修 | | 4単位 必修 | | |
| | 武道・スポーツ特講Ⅱ | 2 | 必修 | | | | | |
| 専門科目 | 東洋武術史特講 | 2 | 選択必修 | 14単位 以上 選択必修 | 30単位 以上 | 16単位 以上 選択必修 | 24単位 以上 | |
| | 武道文化論特講 | 2 | 選択必修 | | | | | |
| | スポーツ哲学特講 | 2 | 選択必修 | | | | | |
| | スポーツ史特講 | 2 | 選択必修 | | | | | |
| | 比較運動文化論特講 | 2 | 選択必修 | | | | | |
| | 武道修行論特講 | 2 | 選択必修 | | | | | |
| | スポーツ社会学特講 | 2 | 選択必修 | | | | | |
| | スポーツ心理学特講 | 2 | 選択必修 | | | | | |
| | 健康スポーツ論特講 | 2 | 選択必修 | | | | | |
| | スポーツ疫学特講 | 2 | 選択必修 | | | | | |
| | 運動栄養学特講 | 2 | 選択必修 | | | | | |
| | 保健行動科学特講 | 2 | 選択必修 | | | | | |
| | スポーツ医学特講(内科系) | 2 | 選択必修 | | | | | |
| | スポーツ医学特講(運動器系) | 2 | 選択必修 | | | | | |
| | 運動生理学特講 | 2 | 選択必修 | | | | | |
| | バイオメカニクス特講 | 2 | 選択必修 | | | | | |
| | トレーニング科学特講 | 2 | 選択必修 | | | | | |
| | コンディショニング科学特講 | 2 | 選択必修 | | | | | |
| | 武道・スポーツ指導領域科目 | コンディショニング指導方法論特講 | 2 | | | | | 選択必修 |
| | | 武道指導方法論特講 | 2 | | | | | 選択必修 |
| | スポーツ指導方法論特講 | 2 | 選択必修 | | | | | |
| | コーチング方法論特講 | 2 | 選択必修 | | | | | |
| | スポーツ運動学特講 | 2 | 選択必修 | | | | | |
| | 体育科教育法特講 | 2 | 選択必修 | | | | | |
| | 保健科教育法特講 | 2 | 選択必修 | | | | | |
| | 武道・スポーツ安全指導論特講 | 2 | 選択必修 | | | | | |
| 演習・指導科目 | 武道・スポーツマネジメント演習Ⅰ | 2 | 選択 | | | | | |
| | 武道・スポーツマネジメント演習Ⅱ | 2 | 選択 | | | | | |
| 研究基礎科目 | 武道・スポーツ特別研究Ⅰ | 2 | 必修 | 8単位 必修 | | 4単位 必修 | | |
| | 武道・スポーツ特別研究Ⅱ | 2 | 必修 | | | | | |
| 研究指導科目 | 武道・スポーツ特別研究Ⅲ | 2 | 必修 | | | | | |
| | 武道・スポーツ特別研究Ⅳ | 2 | 必修 | | | | | |

【学位論文及び特定課題研究の審査】

学位論文の審査を受けようとする学生は、あらかじめ研究報告会において研究計画を報告し、承認を得るものとする。

学位論文の審査は、研究科委員会によって決定された学位論文（特定課題研究を含む）審査会によって審査を行い、その結果は、研究科委員会の議を経て可否を判定する。

学位論文（特定課題研究を含む）審査会については、主査（研究指導教員）が統括し、副査が審査する。

【学位論文審査基準】

- (1) 学術論文に求められる論理の客観性や独創性等を満たしていること。
- (2) 武道・スポーツ、体育、健康のほか関連する分野における事象を科学的・学問的な視点から捉え、課題を見出し、その課題に対して創造的知見を提示した学術資料であること。
- (3) 研究目的から考察に至るまで明確な表現と一貫性があること。
- (4) 研究成果を導き出した論法並びに評価の展開に整合性があり、当該内容が独創的であること。

【特定課題研究審査基準】

- (1) 学術論文に求められる諸要件と同様に論理の独創性や一貫性等を満たしていること。ただし、客観性に関しては、内容及び研究成果の評価基準が著者の経験等に基づいて導き出された主観的なものも可とする。
- (2) 審査対象となる申請報告書が、同様な計画あるいは同様な企画を行おうとする後人に対して有効となる示唆を与える資料となり得ること。
- (3) 実施(Do)の際の工夫、評価(Check)の際の主観的基準に関する視点及び改善(Act)に関する提言等明確な表現並びに内容の独創性が認められること。

審査対象となる申請論文及び申請報告書の審査では、本学の学位授与方針等を踏まえ、第4条及び前条の要件を満たし、武道・スポーツ領域において、自立した研究者として高度な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を修得しているかという観点で総合的に審査する。

【最終試験】

最終試験は、学位論文審査会において修士論文または特定課題研究を中心に行う。

【学位の授与】

研究科を修了した者には、学位規則の定めるところにより、**修士（武道・スポーツ）**の学位を授与する。

【学位授与基準】

本専攻は、建学の精神に則り、武道・スポーツの分野の専門的な職業等に必要な高度な知識と実践能力を備え、広く社会に寄与する人材を養成することを目的とする。学位は、本専攻で所定の単位修得を前提として、社会の当該分野における実践と普及及び活躍が期待できる能力があると判断される学位申請者に授与する。

【教育職員免許状の取得】

教育職員免許法に定める中学校及び高等学校教諭の一種免許状（保健体育）の所要資格を有する者が、本学大学院武道・スポーツ研究科の課程を修了したときは、専修免許状の所要資格が得られる。

なお、専修免許状資格取得に係る単位については、前頁の修了要件一覧表を確認すること。

授業科目一覧

| 区分 | No | 授業科目 | 授業形態 | 単位 | 配当年次 | 担当教員 | 必/選 | 掲載頁 | |
|--------|---------------|--------------|------------------|----|------|--|-------------------|------|----|
| 共通科目 | 1 | 武道・スポーツ特講Ⅰ | 講義 | 2 | 1 | 田中 守、小西 由里子、山本 利春 荒川 裕志、前川 直也 | 必修 | 9 | |
| | 2 | 武道・スポーツ特講Ⅱ | 講義 | 2 | 1 | 田中 守、荒川 裕志、笠原政志 刈谷 文彦、前川 直也 | 必修 | 10 | |
| 専門科目 | 武道・スポーツ文化領域科目 | 3 | 東洋美術史特講 | 講義 | 2 | 1・2 | ※朴 周鳳 | 選択必修 | 11 |
| | | 4 | 武道文化論特講 | 講義 | 2 | 1・2 | 田中 守 | 選択必修 | 12 |
| | | 5 | スポーツ哲学特講 | 講義 | 2 | 1・2 | 田中 守 | 選択必修 | 13 |
| | | 6 | スポーツ史特講 | 講義 | 2 | 1・2 | ※朴 周鳳 | 選択必修 | 14 |
| | | 7 | 比較運動文化論特講 | 講義 | 2 | 1・2 | ※アレキサンダー・ベネット | 選択必修 | 15 |
| | | 8 | 武道修行論特講 | 講義 | 2 | 1・2 | 田中 守 | 選択必修 | 16 |
| | | 9 | スポーツ社会学特講 | 講義 | 2 | 1・2 | 田中 守 | 選択必修 | 17 |
| | 健康・スポーツ科学領域科目 | 10 | スポーツ心理学特講 | 講義 | 2 | 1・2 | 前川 直也 | 選択必修 | 18 |
| | | 11 | 健康スポーツ論特講 | 講義 | 2 | 1・2 | ※村永 信吾 | 選択必修 | 19 |
| | | 12 | スポーツ疫学特講 | 講義 | 2 | 1・2 | ※太田 久吉 | 選択必修 | 20 |
| | | 13 | 運動栄養学特講 | 講義 | 2 | 1・2 | ※湊 久美子 | 選択必修 | 21 |
| | | 14 | 保健行動科学特講 | 講義 | 2 | 1・2 | 小西 由里子 | 選択必修 | 22 |
| | | 15 | スポーツ医学特講(内科系) | 講義 | 2 | 1・2 | ※高木 祐介 | 選択必修 | 23 |
| | | 16 | スポーツ医学特講(運動器系) | 講義 | 2 | 1・2 | ※荻内 隆司 | 選択必修 | 24 |
| | | 17 | 運動生理学特講 | 講義 | 2 | 1・2 | 刈谷 文彦 | 選択必修 | 25 |
| | | 18 | バイオメカニクス特講 | 講義 | 2 | 1・2 | 荒川 裕志 | 選択必修 | 26 |
| | | 19 | トレーニング科学特講 | 講義 | 2 | 1・2 | 荒川 裕志 | 選択必修 | 27 |
| | | 20 | コンディショニング科学特講 | 講義 | 2 | 1・2 | 山本 利春 | 選択必修 | 28 |
| | 武道・スポーツ指導領域科目 | 21 | コンディショニング指導方法論特講 | 講義 | 2 | 1・2 | 笠原 政志 | 選択必修 | 29 |
| | | 22 | 武道指導方法論特講 | 講義 | 2 | 1・2 | 田中 守 | 選択必修 | 30 |
| | | 23 | スポーツ指導方法論特講 | 講義 | 2 | 1・2 | 奥山 秀雄、下拂 翔 | 選択必修 | 31 |
| | | 24 | コーチング方法論特講 | 講義 | 2 | 1・2 | 川合 英介 | 選択必修 | 32 |
| | | 25 | スポーツ運動学特講 | 講義 | 2 | 1・2 | 後藤 豊 | 選択必修 | 33 |
| | | 26 | 体育科教育法特講 | 講義 | 2 | 1・2 | ※釜崎 太 | 選択必修 | 34 |
| | | 27 | 保健科教育法特講 | 講義 | 2 | 1・2 | ※釜崎 太 | 選択必修 | 35 |
| | | 28 | 武道・スポーツ安全指導論特講 | 講義 | 2 | 1・2 | 立木 幸敏 | 選択必修 | 36 |
| | 演習・指導科目 | 29 | 武道・スポーツマネジメント演習Ⅰ | 演習 | 2 | 1 | 奥山 秀雄、山本 利春、笠原 政志 | 選択 | 37 |
| | | 30 | 武道・スポーツマネジメント演習Ⅱ | 演習 | 2 | 2 | 山本 利春、笠原 政志 | 選択 | 38 |
| 研究基礎科目 | 31 | 武道・スポーツ特別研究Ⅰ | 演習 | 2 | 1 | 田中 守、小西 由里子、山本 利春、荒川 裕志 笠原 政志、刈谷 文彦、前川 直也 | 必修 | 39 | |
| | 32 | 武道・スポーツ特別研究Ⅱ | 演習 | 2 | 1 | 田中 守、小西 由里子、山本 利春、荒川 裕志 笠原 政志、刈谷 文彦、前川 直也 | 必修 | 40 | |
| 研究指導科目 | 33 | 武道・スポーツ特別研究Ⅲ | 演習 | 2 | 2 | 田中 守、小西 由里子、山本 利春、荒川 裕志 笠原 政志、刈谷 文彦、前川 直也 | 必修 | 41 | |
| | 34 | 武道・スポーツ特別研究Ⅳ | 演習 | 2 | 2 | 田中 守、小西 由里子、山本 利春、荒川 裕志 笠原 政志、刈谷 文彦、前川 直也 | 必修 | 42 | |

授 業 概 要

| | | | |
|---|---|------|----------------------|
| 授業科目名 | 武道・スポーツ特講 I | 配当年次 | 1 |
| 担当教員 | 田中 守、小西由里子、山本利春、荒川裕志、前川直也 | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ① 国際社会・地域社会の発展に寄与することができる。 | | |
| 授業概要 | 授業計画(テーマ) | | |
| <p>本研究科の教育理念や設置目的を理解し、武道・スポーツの分野の知識や研究成果を広く学修して学術的な研究能力や高度な指導能力を養うための基礎知識を修得する。本研究科を構成する各領域ごとに研究の現状と課題、課題解決に向けた様々なアプローチ方法をオムニバス形式で講義する。</p> <p>武道・スポーツには、数多くの競技種目があるだけでなく、老若男女様々な取り組み方が存在する。よって、その研究の領域や手法も幅広く多岐にわたるものである。武道・スポーツの多様な価値観や取り組み方とその研究の実情、周辺領域の研究との接点等々をふまえて、研究テーマを設定しなければならない。本講義を通じて、各自の問題意識をより明確なものとするのがねらいである。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 武道・スポーツ研究の基礎・基本、現状把握と建学の精神【田中】 2. 武道・スポーツ研究の方法と動向(武道)①【田中】 3. 武道・スポーツ研究の方法と動向(武道)②【田中】 4. 武道・スポーツ研究の方法と動向(スポーツコンディショニング)①【山本】 5. 武道・スポーツ研究の方法と動向(スポーツコンディショニング)②【山本】 6. 武道・スポーツ研究の方法と動向(スポーツコンディショニング)③【山本】 7. 武道・スポーツ研究の方法と動向(健康スポーツ)①【小西】 8. 武道・スポーツ研究の方法と動向(健康スポーツ)②【小西】 9. 武道・スポーツ研究の方法と動向(健康スポーツ)③【小西】 10. 武道・スポーツ研究の方法と動向(バイオメカニクス)①【荒川】 11. 武道・スポーツ研究の方法と動向(バイオメカニクス)②【荒川】 12. 武道・スポーツ研究の方法と動向(バイオメカニクス)③【荒川】 13. 武道・スポーツ研究の方法と動向(武道・スポーツ心理)①【前川】 14. 武道・スポーツ研究の方法と動向(武道・スポーツ心理)②【前川】 15. 武道・スポーツ研究の方法と動向(武道・スポーツ心理)③【前川】 | | |
| 到達目標 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・武道・スポーツの多様な価値観や取り組み方と課題について理解を深める。 ・各自の問題意識を明確にする。 | | | |
| 受講・学習上のアドバイス | 評価方法 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・特定の研究領域や研究手法、卒業研究で手掛けた研究テーマ等々にとらわれることなく、幅広い視野で武道・スポーツを捉える中で研究の方向性を見出してほしい。 事前学習(2h) ・多様な研究領域や研究手法について、情報収集に努める。 事後学習(2h) ・多様な研究事例や手法と、各自の問題意識や研究テーマの連関や活用を工夫する。 | 評価項目 | 割合 | 評価基準等 |
| | 試験 | 0% | |
| | レポート | 80% | 授業テーマに沿った課題レポートの作成 |
| | 平常点 | 20% | 授業に取り組む姿勢(発言、意見、質問等) |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | |
| 必要に応じて資料を配布する。 | | | |
| その他 | | | |
| 授業形態「オムニバス」 | | | |

| | | | |
|--|---|------|----------------------|
| 授業科目名 | 武道・スポーツ特講Ⅱ | 配当年次 | 1 |
| 担当教員 | 田中 守、荒川裕志、笠原政志、刈谷文彦、前川直也 | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ① 国際社会・地域社会の発展に寄与することができる。 | | |
| 授業概要 | 授業計画(テーマ) | | |
| <p>武道・スポーツは、人々の健康で豊かな生活に欠くことのできない重要な役割を担うものとして位置付けられる。しかし、価値観やライフスタイルの多様化が進む現代社会において、一人一人が武道・スポーツに求める内容も多種多様なものとなっている。</p> <p>では、武道・スポーツの世界はこの様な社会の変化に、どう対応すべきであるのか。21世紀の今、我々ほどの様に武道・スポーツを「科学する」のか、「哲学する」のか。各自の専門領域と称する狭い枠組みにとらわれず、他の領域における研究事例も知ることで、武道・スポーツ研究への多様なアプローチ法を身につけることが重要である。</p> <p>本講義は、武道・スポーツ特講Ⅰをさらに深く掘り下げ、本研究科を構成する武道・スポーツの各領域の研究課題と研究成果について、周辺領域の研究との接点や実験手法・分析方法など研究方法を含めて具体的な研究事例を通して学修する。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 武道・スポーツ文化領域へのアプローチ・研究事例・武道思想【田中】 2. 武道・スポーツ指導領域へのアプローチ・研究事例・武道思想【田中】 3. 武道・スポーツ文化領域へのアプローチ・研究事例・剣道【田中】 4. 武道・スポーツ文化領域へのアプローチ・研究事例・解剖学【刈谷】 5. 健康・スポーツ文化領域へのアプローチ・研究事例・解剖学【刈谷】 6. 武道・スポーツ文化領域へのアプローチ・研究事例・解剖学【刈谷】 7. 健康・スポーツ科学領域へのアプローチ・研究事例・心理学【前川】 8. 健康・スポーツ科学領域へのアプローチ・研究事例・心理学【前川】 9. 武道・スポーツ文化領域へのアプローチ・研究事例・柔道【前川】 10. 健康・スポーツ科学領域へのアプローチ・研究事例・バイオメカニクス【荒川】 11. 健康・スポーツ科学領域へのアプローチ・研究事例・バイオメカニクス【荒川】 12. 武道・スポーツ指導領域へのアプローチ・研究事例・トレーニング科学【荒川】 13. 武道・スポーツ指導領域へのアプローチ・研究事例・コンディショニング【笠原】 14. 武道・スポーツ指導領域へのアプローチ・研究事例・コンディショニング【笠原】 15. 武道・スポーツ指導領域へのアプローチ・研究事例・スポーツトレーナー【笠原】 | | |
| 到達目標 | | | |
| ・武道・スポーツ研究への様々なアプローチの仕方を学び、研究計画をたてる。 | | | |
| 受講・学習上のアドバイス | 評価方法 | | |
| <p>・様々な領域の研究手法に興味を持って取り組む姿勢が重要である。他領域から学ぶ内容から、独自性・創意工夫に富む新たなものを創り出す意欲が大事である。</p> <p>事前学習(2h)</p> <p>・多様な研究領域や研究手法によってなされた先行研究の検証に努める。</p> <p>事後学習(2h)</p> <p>・講義内容を踏まえ、各自の研究テーマや研究手法の確立に努める。</p> | 評価項目 | 割合 | 評価基準等 |
| | 試験 | 0% | |
| | レポート | 80% | 授業テーマに沿った課題レポートの作成 |
| | 平常点 | 20% | 授業に取り組む姿勢(発言、意見、質問等) |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | |
| 必要に応じて資料を配布する。 | | | |
| その他 | | | |
| 授業形態「オムニバス」 | | | |

| | | | | |
|---|---|---|------|----------------------------------|
| 授業科目名 | 東洋武術史特講 | | 配当年次 | 1・2 |
| 担当教員 | 朴 周鳳 | | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ② 武道、体育及びスポーツにおける高度で専門的な学術の理論及び応用力を有している。 | | | |
| 授業概要 | | 授業計画(テーマ) | | |
| <p>「武術」は、東アジアという文化圏の中で成立した格闘技として、各国の風習や社会的状況によって形成された。そして民族との交流、対抗、融合、変容などを通して、多種多様な形態を持って継承されている伝統的な身体文化でもある。</p> <p>本講義は、東アジア(日本・韓国・中国)の格闘文化から生まれた「武術」を対象に、これを一つの文化現象として理解し、それらの歴史的背景と社会的展開、そして変遷過程に伴う諸問題について論ずる。また、こうした歴史を踏まえて、今日における武術の意義と価値について再考する。</p> | | <ol style="list-style-type: none"> 1. 「武」の歴史的起源 2. 日本武道の成立と展開1(流派武術の形成と発展) 3. 日本武道の成立と展開2(近代武道の成立) 4. 日本武道の成立と展開3(新陰流と一刀流) 5. 日本武道の成立と展開4(「武道」という概念の変化) 6. 中国武術の成立と発展1(軍隊武術の確立と発展) 7. 中国武術の成立と発展2(民間武術の展開の変化) 8. 中国武術の成立と発展3(武科挙の成立と武術への影響) 9. 中国武術の成立と発展4(現代、国家主導による武術の状況) 10. 韓国武芸の成立と発展1(韓国武芸の歴史的変遷) 11. 韓国武芸の成立と発展2(テコンドーの創造と展開) 12. 韓国武芸の成立と発展3(花郎道と韓国武芸の関係) 13. 韓国武芸の成立と発展4(韓国武芸の多用的変化) 14. 武術の国際化問題(武術文化の現代的意義と価値) 15. 授業の総括と研究発表 | | |
| 到達目標 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・東アジア武術の形成と展開に対して歴史的に説明できる。 ・諸武術が持つ特性を理解し、それらの展開の仕方や諸問題について説明できる。 ・今日における武術の意義と社会的価値について説明できる。 | | | | |
| 受講・学習上のアドバイス | | 評価方法 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・武術と関連する記事や武術著書を参考資料として読んでほしい。 ・東洋武術の分野において論争されている諸問題について様々な角度から考察してほしい。 | | 評価項目 | 割合 | 評価基準等 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・事前学習(2h) 東洋の武術に関する本を読む ・事後学習(2h) 授業内容で理解が不足したところを改めて確認する | | 試験 | 0% | |
| | | レポート | 50% | 資料の収集、検討・考察内容によって評価する。 |
| | | 平常点 | 50% | 受講態度及び提示された質問に対する回答のレベルによって評価する。 |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | |
| 必要に応じて印刷物を配布する。 | | 『武道論集Ⅰ』、武道スポーツ科学研究所、2008、ISBN978-4-9980893-5-3 『武道論集Ⅲ』、武道スポーツ科学研究所、2012、ISBN978-4-9980983-6-0 | | |
| その他 | | | | |
| 授業形態: 単独 | | | | |

| | | | | |
|---|---|---|------|------------------------|
| 授業科目名 | 武道文化論特講 | | 配当年次 | 1・2 |
| 担当教員 | 田中 守 | | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ② 武道、体育及びスポーツにおける高度で専門的な学術の理論及び応用力を有している。 | | | |
| 授業概要 | | 授業計画(テーマ) | | |
| <p>「武道は日本の伝統的な運動文化だ」といわれる。その一方で、現代武道の競技偏重、勝利至上主義の傾向が批判的に捉えられる。武道は歴史上、常に戦争との関わりの中で、その役割や位置付けがさだめられてきた。戦争とは切り離し、教育・スポーツの枠組みの中に置かれる現代武道が、武道としての特性を発揮し、単なる競技スポーツ以上のものとしてその力を発揮するには、今何が課題となるのか。武道文化の形成過程をたどることで、これからの武道の進むべき方向性を与えるきっかけにする。</p> | | <ol style="list-style-type: none"> 1. 武道への文化的アプローチ 2. 武道の概念－武術、武芸、スポーツとの相違、武士道との区別 3. 武道文化の形成「生死観・勝負観」 4. 武道文化の形成「名を惜しみ恥を知る」 5. 武道文化の形成「正々堂々」 6. 武道文化の形成「文武一徳」 7. 武道文化の形成「戦技武術と平和武道」 8. 武道文化の形成「介者剣術と素肌剣術」 9. 武道文化の形成「形稽古と撃剣」 10. 嘉納治五郎の柔道思想「精力善用 自他共栄」 11. 嘉納治五郎の柔道思想「世を補益する」 12. 近代教育と武道「正課導入運動」 13. 近代教育と武道「個別指導から集団指導へ」 14. 武道のスポーツ化 15. まとめ | | |
| 到達目標 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・武道文化の概念を説明できる。 ・武道の歴史的な変遷の概要を説明できる。 | | | | |
| 受講・学習上のアドバイス | | 評価方法 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・武道の伝統特性、文化特性、教育特性について、その歴史とや可能性と課題について考える。 <p>事前学習(2h)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキストで、武道の歴史を概観しておく。 <p>事後学習(2h)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「武道学研究」(日本武道学会)などにより、講義内容を研究レベルで掘り下げて考える。 | | 評価項目 | 割合 | 評価基準等 |
| | | 試験 | 0% | |
| | | レポート | 50% | 講義内容を理解した上で、自分の意見を述べる。 |
| | | 平常点 | 50% | 講義後に各自の感想、考えを述べる。 |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | |
| 日本史小百科『武道』東京堂出版 「武道論集 I 武道の歴史とその精神」国際武道大学 | | ビデオ「日本の古武道」日本武道館 | | |
| その他 | | | | |
| 授業形態「単独」 | | | | |

| | | | |
|---|---|------|--------------------------|
| 授業科目名 | スポーツ哲学特講 | 配当年次 | 1・2 |
| 担当教員 | 田中 守 | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ② 武道、体育及びスポーツにおける高度で専門的な学術の理論及び応用力を有している。 | | |
| 授業概要 | 授業計画(テーマ) | | |
| <p>体育・スポーツ・武道のあり様とそれが個人と社会に及ぼす影響を哲学する。現在のスポーツの本源となる近代スポーツの誕生に纏わる体育・スポーツ・武道の概念やそれが時代にどう対応してきたのかを振り替えながら、その性格と役割などスポーツの本質を問う。また、それらのスポーツが現代に定着していきながら抱える諸問題について、競争と遊戯、個人と組織、フェアとアンフェア、競技者と指導者など、意向対立する事柄からスポーツ倫理を考える。最後には、これらの考えを踏まえ、これからどうスポーツに向き合うべきかを問い直し、スポーツの在り方を考える。</p> | <ol style="list-style-type: none"> I. スポーツの本質とは 体育・スポーツ・武道とは 近世武文化の成立とその伝統性 近代スポーツの誕生と性格 戦時下の体育・スポーツ 現代スポーツの性格と役割: 競争の善と悪 II. スポーツの倫理とは 組織スポーツと運動部活動 スポーツ暴力と競技者・指導者関係 不正行為とフェアプレイ ドーピング史 スポーツ倫理の現在 III. スポーツにどう向き合うべきか レポート発表及び討議 レポート発表及び討議 | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・体育・スポーツ・武道の概念を理解する ・スポーツの本源と現代スポーツの性質を把握する ・スポーツが抱える倫理的諸問題について理解する ・スポーツの在り方を考える | | |
| 受講・学習上のアドバイス | 評価方法 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・学問としての体育・スポーツを考え、授業に積極的に参加すること。 ・体育・スポーツや哲学・倫理に関する問題意識や疑問をもって参加すること。 <p>事前学習(2h) 体育・スポーツのあり方やそれに纏わる諸問題に関する情報収集に努めること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事後学習(2h) 配布資料等の熟読により講義内容の理解を深めること | 評価項目 | 割合 | 評価基準等 |
| | 試験 | 0% | |
| | レポート | 50% | 論理整合性、創造性を重視 |
| | 平常点 | 50% | 講義中の質疑討論の内容や授業に取り組む姿勢を重視 |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | |
| 随時スライド資料や参考資料を配布する。 | スポーツ哲学の入門、シェリル・ベルクマン・ドゥルー、ナカニシヤ出版、978-4-7795-0571-3 | | |
| その他 | | | |
| 授業形態: 単独 | | | |

| | | | |
|--|---|------|----------------------------------|
| 授業科目名 | スポーツ史特講 | 配当年次 | 1・2 |
| 担当教員 | 朴 周鳳 | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ② 武道、体育及びスポーツにおける高度で専門的な学術の理論及び応用力を有している。 | | |
| 授業概要 | 授業計画(テーマ) | | |
| <p>本授業は、体育や遊戯など人間が行ってきた全ての身体運動をスポーツとして捉え、それを歴史的・文化的考察を通して、今日におけるスポーツの意義と価値を試みるものである。</p> <p>現在のスポーツは人間が営む最大の身体文化であり、これを理解するためには歴史的観点からの接近は欠かせない条件となる。そのため正しい歴史的観点や認識を持つ学習は重要なポイントとなり、そうした歴史的考察を通して、現代のスポーツを客観的に探求することができる。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツの歴史から学ぶもの 2. スポーツの起源と進化1(先史時代の闘争と遊び) 3. スポーツの起源と進化2(儀礼的身体文化) 4. 古代ギリシャ思想形成とスポーツ文化 5. 古代ローマ社会とスポーツ文化 6. 中世社会の発展とスポーツ文化の形成 7. 中世ルネサンス時代の宗教改革とスポーツ 8. 近代社会的変化とスポーツ発展 9. 近代的オリンピックの復活と社会的影響 10. 日本における近代スポーツの流入と発展 11. 日本武道の歴史的変遷 12. スポーツ科学の進展と近代スポーツの形成 13. 現代のスポーツと政治・経済・社会との関連 14. 現代スポーツにおける諸課題 15. 研究討議と発表 | | |
| 到達目標 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを身体文化的観点から説明できる。 ・スポーツを歴史的区別し、その特徴と社会との関連性について説明できる。 | | | |
| 受講・学習上のアドバイス | 評価方法 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの関する書籍や雑誌などを読んで、スポーツ文化について考えること。 ・常にスポーツに対して疑問を問題意識を持って授業に臨むこと。 ・事前学習(2h) スポーツ史に関する本を読む ・事後学習(2h) 授業内容で理解が不足したところを改めて確認する | 評価項目 | 割合 | 評価基準等 |
| | 試験 | 0% | |
| | レポート | 50% | 資料の収集、検討・考察内容によって評価する |
| | 平常点 | 50% | 受講態度及び提示された質問に対する回答のレベルによって評価する。 |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | |
| 必要に応じて印刷物を配布する。 | 『スポーツ史講義』、稲垣正浩編、大修館書店、2006年、ISBN4-469-26299-4 | | |
| その他 | | | |
| 授業形態: 単独 | | | |

| | | | |
|--|---|------|---------------------------------------|
| 授業科目名 | 比較運動文化論特講 | 配当年次 | 1・2 |
| 担当教員 | アレキサンダー ベネット | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ② 武道、体育及びスポーツにおける高度で専門的な学術の理論及び応用力を有している。 | | |
| 授業概要 | 授業計画(テーマ) | | |
| 世界各地には、様々な形態の体育・スポーツ文化が存在している。本講義は、世界各地で異なる様々な運動文化のパターン及び特徴を解説しつつ、比較の観点から、各文化の接触、受容及び変容などを論ずる。講義の内容は、主として次の三つである。1. 近代西洋スポーツの成立とその特徴、非西洋社会への浸透とその問題点。2. 東洋における武術の成立とその特徴、及び近代スポーツとの出会いによる変容とその問題点。3. 日・中・朝の武術の共通点と相違点。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 東洋における武術の文化的特徴 2. 騎士道と武士道の比較 3. 日中武術文化比較①中国の武人と尚文卑武・日本の武士と文武両道 4. 日中武術文化比較②異民族戦争と中国武術・島国の日本武道 5. 日中武術文化比較③中国の武術体系と套路・日本の専修武藝と打合い 6. 戚継光の『紀効新書』と朝鮮の『武芸図譜通志』 7. 近代日中両国における伝統武道の変化及びその行方 8. 明治・大正時代における欧米人の武士道に対する意識について 9. 明治・大正時代における欧米人の武術に対する意識について 10. 日本的伝統の確立—明治・大正時代の武道の発展と西欧文化の影響 11. なぜ武道か？ 戦後における武道の国際的普及について 12. 柔道かJUDOか？ 13. 剣道かコマドか？ 14. 現代武道の行方 15. 研究討議と発表 | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・世界各地で異なる運動文化のパターン及びその特徴を説明できる。 ・各武道・スポーツ文化の接触、受容及び変容について説明できる。 | | |
| 受講・学習上のアドバイス | 評価方法 | | |
| 事前学習(2h) ・様々な武道・スポーツ文化に関する文献著書を探して読むこと。 特にベネット著『日本人の知らない武士道』(文春新書) | 評価項目 | 割合 | 評価基準等 |
| 事後学習(2h) 毎回の授業で学習した内容について、レポートを作成すること。 | 試験 | 0% | |
| | レポート | 50% | 資料の収集、検討・考察内容によって評価する。 |
| | 平常点 | 50% | 出席状況、受講態度及び提示された質問に対する回答のレベルによって評価する。 |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | |
| 必要に応じて印刷物を配布する。 | | | |
| その他 | | | |
| 授業形態: 単独 各人が興味を持っている武道・スポーツ文化に対し、比較文化的な視点から検討・考察できるようになってもらいたい。 | | | |

| | | | |
|--|--|------|-------------------|
| 授業科目名 | 武道修行論特講 | 配当年次 | 1・2 |
| 担当教員 | 田中 守 | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ② 武道、体育及びスポーツにおける高度で専門的な学術の理論及び応用力を有している。 | | |
| 授業概要 | 授業計画(テーマ) | | |
| <p>武道において、技の修練にともない精神がいかに陶冶されていくのかを問題にする。まず、武道と言う概念を「武」と「道」のそれぞれの思想から読み解いていく。また、武道という概念の形成過程を、武術・芸道・競技など隣接概念と区別しながら明らかにする。次いで武道の「修行」について、宗教、芸道における修行を省みながら「型」稽古の観点から考えてみたい。その上で、現代武道の修行(稽古)によって培われる身体知について論じる。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 武道とは何か ① 2. 武道とは何か ② 3. 「武」の思想を考える 4. 「道」の思想を考える 5. 武術から武芸へ 6. 近世の武芸思想「剣禅一如」 7. 近世の武芸思想「活人剣、殺人刀」 8. 近世の武芸思想「相抜け」 9. 近世の武芸思想「文武一徳」 10. 近世の武芸思想「心法論」 11. 術から道へ 12. 近代の武道思想「精力善用 自他共栄」 13. 近代の武道思想「学校体育と武道」 14. 武道のスポーツ化「撃剣興行と撓競技」 15. まとめ | | |
| 到達目標 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・武道という文化を理解する。 ・練習・稽古・修行の違いが区別できる。 ・武道修行の今日的目標が設計できる。 | | | |
| 受講・学習上のアドバイス | 評価方法 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・武道、修行、稽古、練習、形、型、トレーニング、コーチング等々、その意味するものを実践的レベルで把握することが重要である。 事前学習(2h) ・テキストの該当項目を精読すること。 事後学習(2h) ・武道の修行観や具体的修行内容を現代の科学的・合理的トレーニング理論と比較するなどして、各自の研究テーマに活用する工夫をすること。 | 評価項目 | 割合 | 評価基準等 |
| | 試験 | 0% | |
| | レポート | 70% | 到達目標の到達度を評価する。 |
| | 平常点 | 30% | 授業への積極的参加態度を評価する。 |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | |
| 必要に応じて印刷物を配布する。 | 授業時に紹介する | | |
| その他 | | | |
| <p>授業形態: 単独 本講義で何を知りたいか、多くの質問事項を用意していただきたい。</p> | | | |

| | | | | |
|--|---|--|------|--------------------------|
| 授業科目名 | スポーツ社会学特講 | | 配当年次 | 1・2 |
| 担当教員 | 田中 守 | | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ② 武道、体育及びスポーツにおける高度で専門的な学術の理論及び応用力を有している。 | | | |
| 授業概要 | | 授業計画(テーマ) | | |
| <p>昨今の体育・スポーツ・武道のあり様と、それが個人と社会に及ぼす影響を考察する。また、スポーツが現代社会に普及していきながら抱える諸問題について、遊戯と競争、個人と組織、競技者と指導者、市民と企業、スポーツと競技イベントなど、意向対立する事柄からスポーツと社会を考える。最後には、これらの考えを踏まえ、人間の身体運動に関する文化的営みの在り方を問い直し、これからどうスポーツに向き合うべきかを意識的に探求する。</p> | | <ol style="list-style-type: none"> 1. 近代スポーツの誕生と性格 2. 現代スポーツの性格と役割 3. スポーツ社会学の営みとその範囲 4. 論文抄読1 5. スポーツの社会問題1 6. 論文抄読2 7. スポーツの社会問題2 8. 論文抄読3 9. スポーツの光と影 10. スポーツとe-スポーツ1 11. スポーツとe-スポーツ2 12. スポーツにどう向き合うべきか 13. レポート発表及び討議 14. レポート発表及び討議 15. まとめ | | |
| 到達目標 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・現代スポーツの性質を把握する ・スポーツが抱える諸問題について理解する ・スポーツの在り方を考える ・スポーツ社会学における基礎的な研究能力を養う。 | | | | |
| 受講・学習上のアドバイス | | 評価方法 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・学問としての体育・スポーツを考え、授業に積極的に参加すること。 ・体育・スポーツや社会学に関する問題意識や疑問をもって参加すること。 事前学習(2h) 体育・スポーツのあり方やそれに纏わる諸問題に関する情報収集に努めること ・事後学習(2h) 配布資料等の熟読により講義内容の理解を深めること | | 評価項目 | 割合 | 評価基準等 |
| | | 試験 | 0% | |
| | | レポート | 50% | 論理整合性、創造性を重視 |
| | | その他 | 50% | 講義中の質疑討論の内容や授業に取り組む姿勢を重視 |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | |
| 随時スライド資料や参考資料を配布する。 | | | | |
| その他 | | | | |
| 授業形態: 単独 | | | | |

| | | | |
|---|---|------|-----------------------|
| 授業科目名 | スポーツ心理学特講 | 配当年次 | 1・2 |
| 担当教員 | 前川 直也 | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ② 武道、体育及びスポーツにおける高度で専門的な学術の理論及び応用力を有している。 | | |
| 授業概要 | 授業計画(テーマ) | | |
| スポーツ場面で生じる心理的な現象や問題について具体的な事例を紹介して解説していく。これまで蓄積されてきたスポーツ心理学の基礎的な理論や枠組みを紹介し、学習内容をスポーツ現場で役立てる視点について、グループワークやディスカッションを通して学び、現場で応用できる力を身につけることを目指す。 | 1. スポーツ心理学の研究領域 2. 心理検査の実施、分析 3. コーチングの心理学 4. 論文抄読・プレゼンテーション 5. 論文抄読・プレゼンテーション 6. メンタルサポート 7. メンタルトレーニングとスポーツカウンセリング 8. 論文抄読・プレゼンテーション 9. 論文抄読・プレゼンテーション 10. 脳波と呼吸(外部講師) 11. 論文抄読・プレゼンテーション 12. 論文抄読・プレゼンテーション 13. チームビルディング 14. 論文抄読・プレゼンテーション 15. まとめ | | |
| 到達目標 | スポーツ心理学に関する基礎的事項やその研究手法を理解し、各自の研究テーマにフィードバックすることができる。 | | |
| 受講・学習上のアドバイス | 評価方法 | | |
| ・日頃より、武道・スポーツ現場での心理的事象について、興味関心を抱いてほしい。 ・積極的な討論を期待します。 事前学習(2h)・事後学習(2h) 事前学習として、授業に関連する参考書から単元内容で取り扱う用語を調べておくこと。また先行研究から明らかになっている点、未だ明らかになっていない点を整理しておくこと。事後学習として、授業で取り扱った内容を整理することと同時に、関連論文から今後の研究課題を明示できるようにする。 | 評価項目 | 割合 | 評価基準等 |
| | 試験 | 0% | |
| | レポート | 85% | 授業に関するレポート内容によって評価する。 |
| | 平常点 | 15% | 授業内でのプレゼンテーション。 |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | |
| 特に指定しない | 適宜紹介 | | |
| その他 | | | |
| 授業形態: 単独 | | | |

| | | | |
|--|---|------|-------------------|
| 授業科目名 | 健康スポーツ論特講 | 配当年次 | 1・2 |
| 担当教員 | 村永 信吾 | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ② 武道、体育及びスポーツにおける高度で専門的な学術の理論及び応用力を有している。 | | |
| 授業概要 | 授業計画(テーマ) | | |
| <p>健康スポーツ科学領域の関心は、「①身体活動・スポーツが健康にどのような影響を及ぼすのか?」「②競技を行っている人(運動部員、アスリートなど)の健康を維持増進させるためにはどのような支援が有効なのか?」の2つに大別される。</p> <p>本講では、①身体活動・スポーツの健康増進効果、および②アスリートの健康状況とその心理社会的要因、の2点について、国内外の最新の知見を紹介する。</p> <p>また、健康スポーツ科学領域の研究論文でよく用いられる心理尺度や統計解析手法についても解説・実習を行う。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方、受講生の研究テーマの聴取 2. 身体活動・スポーツの健康増進効果1:子どもの発育発達 3. 身体活動・スポーツの健康増進効果2:アダプテッド・スポーツ 4. 身体活動・スポーツの健康増進効果3:高齢者の健康増進 5. 身体活動・スポーツの健康増進効果4:ストレス対処力SOC 6. 身体活動・スポーツの健康増進効果5:認知機能への影響 7. 身体活動・スポーツの健康増進効果6:社会的取り組み 8. アスリートの健康状況1:精神健康 9. アスリートの健康状況2:女性アスリートの三主徴FAT 10. アスリートの健康状況3:睡眠の質、睡眠時無呼吸症候群 11. アスリートの健康状況4:心理社会的要因 12. 心理尺度 13. 統計解析手法1:単変量解析 14. 統計解析手法2:多変量解析 15. 総括・レポート課題の提示 | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・身体活動・スポーツが人々の健康にどのような影響を及ぼすのか説明できる。 ・競技を行っている人(運動部員、アスリートなど)の健康を維持増進させるためにはどのような支援が有効なのか説明できる。 ・健康・スポーツ科学領域で用いられる心理尺度や統計解析手法を、目的に応じて扱える。 | | |
| 受講・学習上のアドバイス | 評価方法 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・事前に資料を配布するので、事前に読んで意見や疑問点をまとめておくこと(事前学習1h) ・本講では講義のみでなく、テーマごとに担当を決めて、先行研究を調べて発表をしてもらう。よって、健康・スポーツ科学領域の学術論文を検索し、読んでおくこと。(事前学習1h) ・毎回の授業で学習した内容について、レポートを作成すること(事後学習2h) ・そのほか、自身の修士論文執筆および特定課題研究を遂行する上で知りたいことがあれば、教員に申し出ること。 | 評価項目 | 割合 | 評価基準等 |
| | 試験 | 0% | |
| | レポート | 70% | 授業内容に関する課題レポートを提出 |
| | 平常点 | 30% | 受講態度および発表 |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | |
| 必要に応じてプリントを配布する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・健康・スポーツ科学のためのSPSSによる統計解析入門、出村慎一他、杏林書院、978-4-7644-1090-9 ・健康・スポーツ科学のためのSPSSによる多変量解析入門、出村慎一他、杏林書院、978-4-7644-1572-0 | | |
| その他 | | | |
| 授業形態:単独 | | | |

| | | | |
|--|--|------|-------------------|
| 授業科目名 | スポーツ疫学特講 | 配当年次 | 1・2 |
| 担当教員 | 太田 久吉 | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ② 武道、体育及びスポーツにおける高度で専門的な学術の理論及び応用力を有している。 | | |
| 授業概要 | 授業計画(テーマ) | | |
| <p>疫学は、『特定された人間集団の中で出現する健康に関する様々な事象の頻度及び分布並びにそれらに影響を与える要因を明らかにする科学研究』と定義される。</p> <p>『超高齢社会、ストレス社会の現代において、肥満をはじめとする生活習慣病、ストレス関連疾患、認知症など、運動や身体活動不足が誘発する疾患が急激に増加している。こうした疾患の発生原因やその変動の様子を明らかにし、さらにはその予防や症状改善に有効な知見を提供するのが、「スポーツ疫学」という学問である。</p> <p>本講では、疫学の基礎や運動・スポーツ科学における疫学的研究法について講義するとともに、各自の研究テーマに即した国内外の先行研究について、その統計解析手法に着目して批判的に読み解いていく。また本講では、多変量解析を行う上で留意すべきポイントについても取り上げる。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の進め方、受講生の研究テーマの聴取 2. 疫学1:疫学的思考の紹介(疫学研究の歴史事例) 3. 疫学2:疾病発生と因果的効果の測定 4. 疫学3:疫学研究の種類、疫学指標について 5. 疫学4:バイアスへの対処法 6. 疫学5:層化データによる交絡について 7. 疫学6:交互作用の評価 8. 疫学7:記述統計と推測統計 9. 疫学のための統計学入門 10. 多変量解析1:重回帰分析、ロジスティック回帰分析 11. 多変量解析3:因子分析・主成分分析 12. 先行研究事例1:生活習慣病、肥満・メタボリックシンドローム 13. 先行研究事例2:メンタルヘルス 14. 先行研究事例3:介護予防、健康行動科学 15. 総括・レポート課題の提示 | | |
| 到達目標 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・疫学に関する基本的な考え方、基本用語、疫学指標を説明できる。 ・運動・身体活動・スポーツと健康・疾患との関係を説明できる。 ・データ解析に関する統計学の理解、多変量解析について、その内容と手順・留意すべきポイントを説明できる。 | | | |
| 受講・学習上のアドバイス | 評価方法 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・事前に資料を配布するので、事前に読んで意見や疑問点をまとめておくこと(事前学習1h) ・本講では講義のみでなく、テーマごとに担当を決めて、先行研究を調べて発表をしよう。よって、健康・スポーツ科学領域の学術論文を検索し、読んでおくこと。(事前学習1h) ・毎回の授業で学習した内容について、レポートを作成すること(事後学習2h) ・そのほか、自身の修士論文執筆および特定課題研究を遂行する上で知りたいことがあれば、教員に申し出ること。 | 評価項目 | 割合 | 評価基準等 |
| | 試験 | 0% | |
| | レポート | 70% | 授業内容に関する課題レポートを提出 |
| | 平常点 | 30% | 受講態度および発表 |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | |
| 必要に応じてプリントを配布する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・Epidemiology -An Introduction-, K.J.Rothman著、『ロスマンの疫学 第2版 科学的思考への誘い』、矢野英二・橋本英樹・大脇和浩 監訳)、篠原出版新社、978-4-88412-372-7 ・健康と運動の疫学入門ーエビデンスに基づくヘルスプロモーションの展開ー、熊谷秋三 他、医学出版、978-4-287-19001-2 | | |
| その他 | | | |
| 授業形態「単独」 | | | |

| | | | |
|--|---|------|--------------------------|
| 授業科目名 | 運動栄養学特講 | 配当年次 | 1・2 |
| 担当教員 | 湊 久美子 | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ② 武道、体育及びスポーツにおける高度で専門的な学術の理論及び応用力を有している。 | | |
| 授業概要 | 授業計画(テーマ) | | |
| 生活習慣病の原因は不適切な食生活と運動不足にあり、この改善が健康の指導者の重要な課題となっている。運動の効果を最大限に得るには適切な栄養補給が必要であり、それは子どもたちやスポーツ愛好者、アスリートでも同様である。本講では、各栄養素の体内での代謝過程や作用について生理・生化学的な学習を深め、健康のための安全な運動や高い競技力を発揮するための栄養条件や適切な食事の摂取方法について習得することを目指す。適切な身体づくりや疲労回復、傷害予防等の観点から運動と栄養の関わりを解説する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動時の代謝 熱源栄養素によるエネルギー供給 2. 運動療法・食事療法と生活習慣病予防 運動と糖代謝、運動と脂質代謝 3. スポーツ特性と栄養 運動量と栄養必要量 食事摂取基準とアスリート食 4. 持久型種目の身体・栄養・食事の特徴 5. 筋力増強型種目の身体・栄養・食事の特徴 6. スポーツ選手の食事・栄養の現状と課題 7. 日本人アスリートの食事調査結果の文献抄読 8. アスリートにみられる貧血・疲労骨折・摂食障害等の予防と対策 9. スポーツ活動中の熱中症、脱水症状の予防と対策 10. スポーツ選手を対象とした栄養調査 栄養調査方法と栄養価計算, 食物摂取頻度調査 11. スポーツ選手を対象とした栄養指導 栄養教育教材づくり 12. スポーツ食の献立作成、合宿時の食事, 学食や寮食の実際 13. 栄養教育活動の発表 想定した対象者への食育活動の実際 14. 栄養士と管理栄養士、スポーツ栄養士の養成と資質 15. まとめ 運動と栄養についての諸問題 | | |
| 到達目標 | | | |
| ・運動習慣の効果と栄養条件との関連性について身体の生理・生化学的機能と関連づけて説明することができる。子どもたち、スポーツ愛好家、アスリートなどに対する運動の指導者としての食事や栄養の指導力を備える。 | | | |
| 受講・学習上のアドバイス | 評価方法 | | |
| ・毎回の授業で討論に積極的に参加すること。 ・事前学習(2h) 配布された文献を読み内容を把握し、栄養用語などについては事前に調べてくること。課題である1週間の食事調査の実施し、想定した運動実施者への栄養教育内容を立案、プレゼンテーションの準備をすること。 事後学習(2h) 授業内容を復習し、食事や栄養についてまとめ、自身の食生活の改善方針を考える。、自身の食事や栄養、指導しているチーム・選手の食事や栄養について、改善するように働きかけ実践すること。 | 評価項目 | 割合 | 評価基準等 |
| | 試験 | 40% | 栄養教育立案とプレゼンテーション能力 |
| | レポート | 10% | プレゼンテーション内容をレポートとしてまとめる力 |
| | 平常点 | 50% | 文献を読み理解する力、討論する力 |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | |
| 必要に応じて印刷物を配付する。 | 「スポーツ指導者のためのスポーツ栄養学」小林修平監訳 南江堂 9784524225651 2,548円 1992 「アスリートのための栄養・食事ガイド」小林修平編著者 第一出版 9784804111346 2,520円 2001 | | |
| その他 | | | |
| 授業形態: 単独 | | | |

| | | | | |
|---|---|--|------|------------------------------|
| 授業科目名 | 保健行動科学特講 | | 配当年次 | 1・2 |
| 担当教員 | 小西 由里子 | | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ② 武道、体育及びスポーツにおける高度で専門的な学術の理論及び応用力を有している。 | | | |
| 授業概要 | | 授業計画(テーマ) | | |
| <p>健康と病気は、個々人の生き方の問題であり、健康増進、疾病や障害の予防、治療生活は、個々人が自らの責任で選択する「主体者」となる必要がある。そのための情報収集と意思決定、行動に及ぼす様々な過程について学ぶ。</p> <p>具体的には、各自が、現代の保健・体育・スポーツ・医療に関する諸問題を取り上げ、問題を持ち寄り、情報収集を行い、プレゼンテーションやディベートを通して、意見交換や討論を重ね、意思決定や行動に至るまでの過程を掘り下げ考えて行く、参加型の授業形態が多い。</p> | | <ol style="list-style-type: none"> 1. 人の生命はどこから 2. 減少手術を問う 3. 出生前診断を問う 4. クローンを問う 5. 臓器移植 6. 脳死 7. 人の死とはいつ 8. 情報収集 9. 意思決定 10. インフォームド・コンセント 11. 心身症 12. 事例研究 13. プレゼンテーション 14. ディベート 15. まとめ | | |
| 到達目標 | | | | |
| <p>・現代の保健・体育・スポーツ・医療に関する諸問題について、その事象や過程について、多面的理解ができる。</p> | | | | |
| 受講・学習上のアドバイス | | 評価方法 | | |
| <p>・保健・体育・スポーツ・医療に関する最近のトピックスに注意を払って、日常から情報収集にあたっておくことが望ましい。</p> <p>・事前学習(2h)「授業回テーマについて事前に調べる」</p> <p>・事後学習(2h)「授業回テーマについてレポートにまとめる」</p> | | 評価項目 | 割合 | 評価基準等 |
| | | 試験 | 0% | |
| | | レポート | 50% | 提出期限厳守とし、内容(質)を評価する。 |
| | | 平常点 | 50% | 授業での発表・質問・発言等の積極的な受講態度を評価する。 |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | |
| 必要に応じて印刷物を配布する。 | | | | |
| その他 | | | | |
| 授業形態: 単独 | | | | |

| | | | |
|--|---|--|-----|
| 授業科目名 | スポーツ医学特講(内科系) | 配当年次 | 1・2 |
| 担当教員 | 高木 祐介 | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ② 武道、体育及びスポーツにおける高度で専門的な学術の理論及び応用力を有している。 | | |
| 授業概要 | | 授業計画(テーマ) | |
| <p>担当教員の専門とするスポーツ医学・内科学全般について講義する。また、各授業におけるテーマについて、講義や資料をもとに討論することによりこの分野の知識を深め、また、知識を活用できるようにする。</p> | | <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ医学概論 2. スポーツ医学概論 3. オリンピックとスポーツ医・科学 4. オリンピックとスポーツ医・科学 5. アンチ・ドーピング 6. 内科的スポーツ障害 7. 内科的スポーツ障害 8. 内科的スポーツ障害 9. 内科的スポーツ障害 10. 内科的スポーツ障害 11. 運動・スポーツと健康 12. 運動・スポーツと健康 13. 内科疾患の運動療法 14. 内科疾患の運動療法 15. まとめ | |
| 到達目標 | | | |
| <p>・体育系大学院生として スポーツ医学の基礎知識を獲得すること。</p> | | | |
| 受講・学習上のアドバイス | | 評価方法 | |
| <p>・受講までに十分に学部段階のスポーツ医学と健康管理学を自分で体得しておくこと。</p> <p>・事前学習(2h) 講義内容に関する情報収集に努めること</p> <p>・事後学習(2h) 配付資料等の熟読により講義内容の理解を深める</p> | | 評価項目 | 割合 |
| | | 試験 | 0% |
| | | レポート | 30% |
| | | 平常点 | 70% |
| | | レポートの出来で判断する。 | |
| | | 授業中の出来、および質疑応答で判断する。 | |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | |
| 必要に応じて印刷物を配付する。 | | | |
| その他 | | | |
| <p>受講までに十分に学部段階のスポーツ医学と健康管理学を自分で体得しておくこと。</p> <p>授業形態: 単独</p> | | | |

| | | | |
|---|---|------|----------------------|
| 授業科目名 | スポーツ医学特講(運動器系) | 配当年次 | 1・2 |
| 担当教員 | 荻内 隆司 | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ② 武道、体育及びスポーツにおける高度で専門的な学術の理論及び応用力を有している。 | | |
| 授業概要 | 授業計画(テーマ) | | |
| <p>武道・スポーツでは、その内容からもスポーツ外傷・障害を完全には避け得ない。そのため整形外科的なスポーツ医学は武道・スポーツの実践や指導に関与するすべての者に必須である。この講義では、スポーツ傷害のメカニズムや病態・診断技術・治療の知識を実践的に深め、実際の診断の流れや、画像検査などの諸検査法の理解と評価もできるようにし、現場の見学等も行って、傷害アスリートの治療を円滑にするための援助が適切にできるようにする。さらに関連論文を選択・収集させて、スポーツ医学的な実験を行う。終了後、結果を分析し、考察させる。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ医学とは 2. スポーツ医学(整形)論文抄読 3. スポーツ医学(整形)各種画像検査講義 4. スポーツ医学(整形)臨床検査講義 5. スポーツ医学(整形)治療法講義 6. スポーツ医学(整形)薬物療法講義 7. スポーツ医学(整形)実験立案 8. スポーツ医学(整形)実験 9. スポーツ医学(整形)実験結果考察 10. スポーツ医学(整形)実験レポート作成 11. スポーツ医学(整形)診察研修 12. スポーツ医学(整形)相談研修 13. スポーツ医学(整形)手術見学など 14. スポーツ医学(整形)施設見学など 15. スポーツ医学(整形)研修総合まとめ | | |
| 到達目標 | <ol style="list-style-type: none"> 10. スポーツ医学(整形)実験レポート作成 11. スポーツ医学(整形)診察研修 12. スポーツ医学(整形)相談研修 13. スポーツ医学(整形)手術見学など 14. スポーツ医学(整形)施設見学など 15. スポーツ医学(整形)研修総合まとめ | | |
| <p>・整形外科的なスポーツ傷害の診断・治療の流れと内容について理解し、選手に適切な助言ができる。</p> | | | |
| 受講・学習上のアドバイス | 評価方法 | | |
| <p>・学部において、「スポーツ外傷・障害論」「機能評価法」の授業を受講しているか、同等の知識を持っていることが望ましい。</p> <p>事前学習(2h)</p> <p>・以下の2つの文献を読む</p> <p>*①, ②の文献は自身で収集</p> <p>(1)臨床スポーツ医学 Vol.35,No.4(2018-4)p.372-379「多施設共同研究からみたACL再建術の現状と課題 大原ほか」</p> <p>(2)臨床スポーツ医学 Vol.35,No.12(2018-12)p.1252-1255「野球・ソフトボールにおける肩肘の障害(成長期) 松浦ほか」</p> <p>*③の文献は後日PDFにて配布</p> <p>(3)整形外科 Surgical Technique vol.5 no.6 (2015)p.18-28「膝屈筋腱を用いた前十字靭帯再建術 古賀ほか」</p> <p>事後学習(2h)</p> <p>・手術見学、外来見学にて学んだことを他者へ説明できるくらいになるよう、再度整理する</p> | 評価項目 | 割合 | 評価基準等 |
| | 試験 | 0% | |
| | レポート | 30% | 課題に対する提出物を評価する。 |
| | 平常点 | 70% | 毎回の出席と、授業の受講態度を評価する。 |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | |
| 必要に応じて印刷物を配布する。 | | | |
| その他 | | | |
| 授業形態:単独 | | | |

| | | | |
|---|---|------|----------------------------|
| 授業科目名 | 運動生理学特講 | 配当年次 | 1・2 |
| 担当教員 | 刈谷 文彦 | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ② 武道、体育及びスポーツにおける高度で専門的な学術の理論及び応用力を有している。 | | |
| 授業概要 | 授業計画(テーマ) | | |
| <p>身体運動機能に関与する諸器官の生理的变化は、様々な内因性、外因性の要因においてもたらされる。本講では、身体活動の量や様式などいくつかの内因性、外因性の要因の違いによる身体の様々な生理的機能の変化について探求することを行う。具体的には講ごとに受講学生にキーワードを提示し、それに関連する研究論文を受講学生が抄読した後に、それらの内容をまとめたレポートを、受講者全員に提出してもらう。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 導入 研究論文の読み方・抄読用資料の作成の方法 2. 研究論文の検索方法 3. 第一講 身体トレーニングに対する骨格筋の生理的機能の変化、骨格筋の構造・機能の基本的な解説 4. 論文抄読 5. 論文抄読 6. 論文抄読 7. 第二講 身体トレーニングに対するエネルギー代謝に関する生理的機能の変化 8. 論文抄読 9. 論文抄読 10. 論文抄読 11. 第三講 栄養学的トリートメントに対する身体運動能力の変化、エネルギー代謝に関する基本的な解説 12. 論文抄読 13. 論文抄読 14. 論文抄読 15. 本講のまとめ | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 最新のトピックスを含む運動生理学分野の研究手法を説明でき、研究結果をまとめることができる。 | | |
| 受講・学習上のアドバイス | 評価方法 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 学部の授業で配布した資料や専門書で抄読する論文の関連分野の内容を復習しておくことで、論文抄読が円滑に行えると思われる。 事前学習:学部の授業で配布した資料や専門書で抄読する論文の関連分野の内容の学習(2h) 事後学習:抄読した論文の要旨をまとめて提出(2h) | 評価項目 | 割合 | 評価基準等 |
| | 試験 | 0% | |
| | レポート | 60% | 講義内で抄読した学術論文のまとめのレポートを評価する |
| | 平常点 | 40% | 論文抄読の取り組み、発表内容を評価する |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | |
| 必要に応じて印刷物を配布する。 | 特になし | | |
| その他 | | | |
| 授業形態:単独 | | | |

| | | | |
|--|--|------|-----------------------|
| 授業科目名 | バイオメカニクス特講 | 配当年次 | 1・2 |
| 担当教員 | 荒川 裕志 | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ② 武道、体育及びスポーツにおける高度で専門的な学術の理論及び応用力を有している。 | | |
| 授業概要 | 授業計画(テーマ) | | |
| <p>本講義では、バイオメカニクス分野における実験手法および分析手法の習得を目的とし、集中形式の実習型授業を行う。実験手法として使用する機器は、光学式モーションキャプチャシステム、床反力計、筋電図である。実際のスポーツ動作を対象に、上記の手法によるデータ計測を行い、それらのデータを用いて分析法の練習を行う。具体的な分析手法は、時系列データを用いた波形解析・フィルタリング、反射マーカース座標データを用いたベクトル演算・行列演算、床反力データを用いた圧力中心算出、筋電図データの整流化・正規化などである。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. バイオメカニクスにおける実験手法と分析手法 ① 2. バイオメカニクスにおける実験手法と分析手法 ② 3. 実験 ① 4. 実験 ② 5. 分析(光学式モーションキャプチャシステム①) 6. 分析(光学式モーションキャプチャシステム②) 7. 分析(光学式モーションキャプチャシステム③) 8. 分析(床反力計①) 9. 分析(床反力計②) 10. 分析(床反力計③) 11. 分析(筋電図①) 12. 分析(筋電図②) 13. 分析(筋電図③) 14. 分析結果の考察 15. まとめ | | |
| 到達目標 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・バイオメカニクスの基本的な実験手法を説明できる。 ・バイオメカニクスの基本的な分析手法を説明できる。 ・バイオメカニクスの手法で何を評価できるのか説明できる。 | | | |
| 受講・学習上のアドバイス | 評価方法 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・力学と数学(三角関数・ベクトル・行列)の基礎学力をつけておくこと。 ・Excelの使用法に慣れておくこと。 <p>事前学習(2h) 実験・分析手法に関して各自調べること 事後学習(2h) 各自にデータ分析を行わせる</p> | 評価項目 | 割合 | 評価基準等 |
| | 試験 | 0% | |
| | レポート | 100% | 実験レポートを提出させ、その内容で評価する |
| | 平常点 | 0% | |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | |
| 必要に応じて印刷物を配布する。 | バイオメカニクスと動作分析の原理 Iwan W. Griffiths (著), 石毛 勇介(翻訳), 川本 竜史(翻訳) | | |
| その他 | | | |
| 授業形態: 単独 | | | |

| | | | |
|--|---|------|--|
| 授業科目名 | トレーニング科学特講 | 配当年次 | 1・2 |
| 担当教員 | 荒川 裕志 | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ② 武道、体育及びスポーツにおける高度で専門的な学術の理論及び応用力を有している。 | | |
| 授業概要 | 授業計画(テーマ) | | |
| 当授業は全15回を前半・中盤・後半の3つに分けて実施する。前半では、主要な体力要素に焦点を当て、それらのトレーニングに関する科学的知見を各自調べて発表し、その後全員でディスカッションを行う。中盤では、トレーニング科学領域で用いられるいくつかの測定方法について各自調べて発表し、その後全員でディスカッションを行う。後半では、中盤で扱った測定方法を対象に実験実習を行い、測定時の注意点、データの分析手法、結果の解釈方法を学ぶ。 | 1. 文献研究:筋力トレーニング 2. 文献研究:筋パワートレーニング 3. 文献研究:持久力トレーニング 4. 文献研究:敏捷性トレーニング 5. 文献研究:柔軟性トレーニング 6. 文献研究:形態・体組成測定 7. 文献研究:各種筋力測定 8. 文献研究:各種エルゴメーター測定 9. 文献研究:疾走・跳躍能力測定 10. 文献研究:筋電図測定 11. 実験実習:形態・体組成測定 12. 実験実習:各種筋力測定 13. 実験実習:各種エルゴメーター測定 14. 実験実習:疾走・跳躍能力測定 15. 実験実習:筋電図測定 | | |
| 到達目標 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 授業で扱った各体力要素のトレーニング法に関する科学的知見の概要を説明できる。 授業で扱った各測定方法の概要を説明できる。 授業で扱った各測定および分析を自らの手で遂行できる。 | | | |
| 受講・学習上のアドバイス | 評価方法 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 授業への出席はもちろん、トレーニング実験実施中は、授業時間帯以外にトレーニングに参加を求める場合がある。 事前学習(2h) <ul style="list-style-type: none"> 参考書「アスリートのための筋力トレーニングバイブル」における序章および第1章を精読しておくこと。 講義内容に関する情報収集に努めること。 第11回からの実験実習前には、使用する実験機材について簡単な使用方法を調べておくこと。 事後学習(2h) <ul style="list-style-type: none"> 第10回までは文献研究のため、他者が発表したレポートについて復習しておくこと。 第11回からの実験実習では、測定したデータについてレポートを作成すること。 | 評価項目 | 割合 | 評価基準等 |
| | 試験 | 0% | |
| | レポート | 70% | プレゼンテーションおよびレポートの内容(客観性・論理性・整合性)を評価する。 |
| | 平常点 | 30% | ディスカッション時の発言内容(客観性・論理性・整合性)を評価する。 |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | |
| 必要に応じて資料を配布する。 | アスリートのための筋力トレーニングバイブル。(編・著) 谷本道哉, 荒川裕志, ナツメ社. ISBN:978-4-8163-6551-5. 1600円. | | |
| その他 | | | |
| 授業形態「単独」 | | | |

| | | | |
|---|---|------|----------------------|
| 授業科目名 | コンディショニング科学特講 | 配当年次 | 1・2 |
| 担当教員 | 山本 利春 | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ② 武道、体育及びスポーツにおける高度で専門的な学術の理論及び応用力を有している。 | | |
| 授業概要 | 授業計画(テーマ) | | |
| <p>身体を機能的に整えるあらゆる知識を統合させ、傷害予防、競技力向上、健康増進、リハビリテーションなどを目的としたコンディショニングのより効果的な方法を科学的な観点から探っていく。特に現在行われているトレーニングや機能評価の方法の問題点や新たな考え方について、実際にいくつかのコンディショニング手法の効果や各種測定法の互換性や信頼性などについて検証する実験実習を通して、身体機能をコンディショニングするために必要なことは何かを論及する。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. コンディショニング科学総論 2. 現場に活かすコンディショニングの科学 3. コンディショニングの改善方法に関する科学的知見 4. コンディショニングの評価法に関する科学的知見 5. コンディショニング手法を検証する 6. コンディショニング評価法を検証する 7. コンディショニングの効果検証の方法 8. 各種筋力測定・評価実習 9. 各種柔軟性測定・評価実習 10. 各種疲労度の測定・評価実習 11. コンディショニングの効果に関する実験 12. コンディショニングの指導ツールの作成 13. コンディショニングに関するアンケート調査実習 14. テーマ別プレゼンテーション 15. コンディショニング関連施設の視察・体験 | | |
| 到達目標 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・コンディショニング科学関連分野の概要について理解する。 ・各種コンディショニング手法の効果や評価法について説明できる。 ・コンディショニング科学分野の研究方法について理解する。 ・コンディショニングの具体的な指導に役立つツールを作成できる。 | | | |
| 受講・学習上のアドバイス | 評価方法 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・コンディショニング科学に関連した学術雑誌を積極的に読んでおくこと。 ・事前学習(2h) コンディショニングに関連した関心記事、問題点などについて情報収集しておくこと。 ・事後学習(2h) 自身の研究分野、指導領域に当てはめ、コンディショニング科学の応用について整理すること。 | 評価項目 | 割合 | 評価基準等 |
| | 試験 | 0% | |
| | レポート | 50% | 実験計画書及び実験経過報告書の提出。 |
| | 平常点 | 50% | 毎回の授業の出席と、授業態度を評価する。 |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | |
| 必要に応じて印刷物を配布する。 | | | |
| その他 | | | |
| 授業形態:単独 | | | |

| | | | |
|---|--|------|---------------------------------|
| 授業科目名 | コンディショニング指導方法論特講 | 配当年次 | 1・2 |
| 担当教員 | 笠原 政志 | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ② 武道、体育及びスポーツにおける高度で専門的な学術の理論及び応用力を有している。 | | |
| 授業概要 | 授業計画(テーマ) | | |
| <p>目的を達成させるためにあらゆる要素を調整することがコンディショニングである。したがって、体育スポーツ分野で言えば、傷害予防・競技力向上になる。それに科学を加えることで、あらゆる要素を科学的な視点から分析していくことでことが問題点をより明らかにしていく。さらにそれには日本にとどまらず、海外も視野に入れて多角的に見る力が必要となる。そこで本特講では、傷害予防と競技力向上を多角的な視点から捉え、傷害予防と競技力向上に関わる身体を機能を多角的に捉えることを目的とした指導実習を行う。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. コンディショニング科学の活用法 2. コンディショニング科学に関連する文献情報 3. コンディショニング科学情報を用いた指導方法の仕方 4. 海外研究施設におけるスポーツ医科学実習 5. 海外研究施設におけるスポーツ医科学実習 6. 海外研究施設におけるスポーツ医科学実習 7. 海外研究施設におけるスポーツ医科学実習 8. 海外研究施設におけるスポーツ医科学実習 9. コンディショニング科学の視点を踏まえた体力測定企画立案 10. コンディショニング科学の視点を踏まえた体力測定企画立案 11. コンディショニング科学の視点を踏まえた体力測定実践 12. コンディショニング科学の視点を踏まえた体力測定実践 13. 体力測定および結果フィードバック方法に関するプレゼンテーション 14. 体力測定および結果フィードバック方法に関するプレゼンテーション 15. 体力測定および結果フィードバック方法に関するプレゼンテーション | | |
| 到達目標 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・コンディショニング指導する際に測定評価について理解する ・コンディショニング指導実習方法について理解する ・コンディショニング指導を科学的に捉えて指導する方法について理解する | | | |
| 受講・学習上のアドバイス | 評価方法 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・事前に自身が専門とする立場に必要なコンディショニング(傷害予防や競技力向上)についての参考文献を調べ、現在明らかになっていること、そうでないことを整理しておくこと ・実習後には、どのようなことを感じ、なぜそうなったのかを文献を用いて自身の考えを示す <p>事前学習:教科書を読んで実践研究に関する予備情報を得ておくこと(2h) 事後学習:授業に関する先行研究を調べること(2h)</p> | 評価項目 | 割合 | 評価基準等 |
| | 試験 | 0% | |
| | レポート | 70% | コンディショニング実習レポート 体力測定企画立案レポート |
| | 平常点 | 30% | 授業における取組状況 |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | |
| 体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方、福永哲夫・山本正嘉編著、市村出版 | | | |
| その他 | | | |
| 授業形態:単独 | | | |

| | | | | |
|---|---|---|------|-----------------------|
| 授業科目名 | 武道指導方法論特講 | | 配当年次 | 1・2 |
| 担当教員 | 田中 守 | | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ② 武道、体育及びスポーツにおける高度で専門的な学術の理論及び応用力を有している。 | | | |
| 授業概要 | | 授業計画(テーマ) | | |
| <p>現代の武道は、武器による命のやりとりを起源としている。そこには人生一度限りのやり直しができない、後戻りができない生死の課題というものが浮き彫りにされてくる。武道は心気の働きと技の相即、すなわち心技体の統合とその発揮によって勝敗を決するものであることから、瞬間瞬間の心気のあり様と技の遣い方が問われることになる。こうした考え方を根基にして、武道における悟道の階梯をめぐる教習構造や修行上の諸課題、術理に関する身法・心法・技法の詳細と変化即応性、および技遣いの実際について論じる。こうしたなかから、技の習熟と人間的な自覚との相即(事理一致)を探求していく「道」について包括的に考察を深める。特に剣道の立場から展開する。</p> | | <ol style="list-style-type: none"> 1. 「武道」を概観する 2. 武道の教習構造…厳しい雲水修行 3. 武道の教習構造…師之心得、門弟之心得 4. 武道の教習構造…稽古之次第之事 5. 悟道の階梯…型の習い、守破離、戒定慧、聞思修、習稽工、鍛錬、修養 6. 風姿花伝にみる日本的運動学習論 －武道と風姿花伝との関連性－ 7. 風姿花伝にみる日本的運動学習論 －年来稽古条々①－ 8. 風姿花伝にみる日本的運動学習論 －年来稽古条々②－ 9. 風姿花伝にみる日本的運動学習論 －年来稽古条々③－ | | |
| 到達目標 | | 10. 礼 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・武道の沿革について理解を深め、武道の概念が説明できる。 ・武道における特徴的な教習構造について説明できる。 ・武道の術理について理解を深めることにより、スポーツの技術性との相違が把握できる。 ・武道の教育的意義について説明できる。 | | 11. 剣道の術理…構えの諸問題(目付、掛け声)、心気力一致 | | |
| | | 12. 剣道の術理…攻め合い、間合、先・後、機 | | |
| | | 13. 剣道の術理…技の考え方、捨て身、刃筋、有効打突、残心 | | |
| | | 14. 理法の修錬と人間形成論、武道の教育的意義の考察 | | |
| | | 15. まとめ | | |
| 受講・学習上のアドバイス | | 評価方法 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・受講者の専門性を考慮しつつ、武道・体育・スポーツを比較考察したり、内容の拡がりや深み調整したり、さまざまな事例を多く取り入れたりしながら論考する。 <p>事前学習(2h)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武道の修行、芸道の稽古など日本の教習について情報収集に努める。 <p>事後学習(2h)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武道や芸道の師弟関係や指導理念と現代のコーチング理論の比較等により、その異同や変遷について理解を深める。 | | 評価項目 | 割合 | 評価基準等 |
| | | 試験 | 0% | |
| | | レポート | 50% | 課題レポートの内容について吟味する。 |
| | | 平常点 | 50% | 授業への取組みと討論の内容などを評価する。 |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | |
| 必要に応じて印刷物などを配布する。 | | | | |
| その他 | | | | |
| 授業形態: 単独 | | | | |

| | | | |
|---|---|------|--|
| 授業科目名 | スポーツ指導方法論特講 | 配当年次 | 1・2 |
| 担当教員 | 奥山 秀雄、下拂 翔 | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ② 武道、体育及びスポーツにおける高度で専門的な学術の理論及び応用力を有している。 | | |
| 授業概要 | 授業計画(テーマ) | | |
| <p>スポーツの本質と人間的価値を十分に理解した上で、現代社会におけるスポーツの指導者に求められる総合的な人間力の向上、ならびにスポーツの意義と価値を守り育て未来へ継承していく役割とその方法を学ぶ。</p> <p>・本授業では、効果的な学びを促進するためのアクティブ・ラーニング(AL)を多用し、授業の始めに前回の学習内容を互いに確認し合うコミュニケーション・ワークを導入することによって、受講者の思考・意見・発言を積極的に促すとともに、主体的・共同的な学びの定着化を図る。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション(キャリアデザインとコミュニケーション) (奥山・下拂) 2. スポーツの意義と価値 (下拂) 3. 指導者に求められる役割と使命(心構え・視点) (下拂) 4. スポーツの指導現場における課題とリスクマネジメント (下拂) 5. スポーツ指導におけるメンタルマネジメント①(目標設定) (下拂) 6. スポーツ指導におけるメンタルマネジメント②(ライフスキルの高め方) (下拂) 7. スポーツ指導におけるアンガーマネジメント (下拂) 8. チームビルディングとチームマネジメント (下拂) 9. ライフステージや対象者の特性に応じた指導と実践①(年齢・性差) (奥山) 10. ライフステージや対象者の特性に応じた指導と実践②(障がい者) (奥山) 11. コミュニケーションスキル実習①(ロジカルシンキング) (奥山) 12. コミュニケーションスキル実習②(コーチングスキル) (奥山) 13. プレゼンテーション実習①(エレベーターピッチ) (奥山) 14. プレゼンテーション実習②(Information Technology) (奥山) 15. 総括 (奥山) | | |
| 到達目標 | <p>スポーツ指導者としての社会的活動の責任と重要性を理解し、その実践において必要となる各種マネジメント能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけて、指導に役立てることが出来る。</p> | | |
| 受講・学習上のアドバイス | 評価方法 | | |
| <p>自らが専門とする競技種目や指導する対象において、各授業のテーマに対する現状の把握および課題や問題点を予め用意して受講すること。事前学習(2h)</p> <p>また、次週のコミュニケーションワークに備え、受講した授業内容の復習とプレゼンテーションの準備を怠らないこと。事後学習(2h)</p> | 評価項目 | 割合 | 評価基準等 |
| | 試験 | 0% | |
| | レポート | 60% | 到達目標に対する達成度を総合的に評価する |
| | 平常点 | 40% | コミュニケーション・ワークにおける発表能力、討議への積極的参加などを総合的に評価する |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | |
| 必要に応じて資料を配布する | <p>公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ(財団法人日本スポーツ協会)他</p> <p>「Sitting-Shooter Basketball Home」 https://ssbgame.p-kit.com/</p> | | |
| その他 | | | |
| 授業形態「オムニバス」 | | | |

| | | | |
|---|---|------|-----------------------------|
| 授業科目名 | コーチング方法論特講 | 配当年次 | 1・2 |
| 担当教員 | 川合 英介 | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ② 武道、体育及びスポーツにおける高度で専門的な学術の理論及び応用力を有している。 | | |
| 授業概要 | 授業計画(テーマ) | | |
| <p>教え、導くという指導者に科せられた役割、そしてその根幹をなす理念、理想は古くから一貫しており、社会情勢に対して変化しうるものではない。その一方で、スポーツに携わる指導者を取り巻く環境は、その時代の社会情勢に影響を受け、大きく変化している。そのため指導者には時代、そして指導対象のニーズに応じる柔軟性を持ちつつ、一貫した指導理念を表現する能力が求められる。</p> <p>本授業は、スポーツにおける指導の原則、在り方について学び、具体的な指導技術論を身につけることで、高度職業人としての指導者の育成を目的とする。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに:スポーツにおける指導の在り方 2. コーチングとティーチングの違い 3. 指導者に求められる資質と技能 4. 目標の設定方法 5. 指導現場における現状と課題 6. 指導実習へ向けたプログラム立案① 7. 指導実習へ向けたプログラム立案② 8. 指導実習① 9. 指導実習② 10. 指導実習③ 11. 指導実習(前半)の振り返り 12. 指導実習④ 13. 指導実習⑤ 14. 指導実習⑥ 15. まとめ:コーチング学における今日的課題について | | |
| 到達目標 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・自身が専門とする競技種目もしくは深い関わりのある競技種目について、理論的背景を伴った指導ができること。 ・コーチング学の源流ならびに今日的課題について理解を深め、個別種目のコーチング論から一般理論としてのコーチング学について、自らの考えを提示できること。 | | | |
| 受講・学習上のアドバイス | 評価方法 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料や参考書を読み、コーチング学についての理解を深めておくこと。特に自らが専門とする競技種目におけるコーチング学的課題ならびに個人的課題について熟考しておくこと。 ・レポートなどの課題は、PCを用いて作成する。関連するスキルを磨いておくこと。 <p>事前学習(2h)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に関する情報収集やワークの準備に努めること。 <p>事後学習(2h)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・配布資料の熟読やワークの振り返り(再実践)により、授業内容の理解を深めること。 ・指導実習(前半)における結果等を振り返り、次の指導実習(後半)へ活かすこと。 | 評価項目 | 割合 | 評価基準等 |
| | 試験 | 40% | 指導実習時における指導内容を評価する。 |
| | レポート | 40% | 理論的背景を伴った指導法が確立できているかを確認する。 |
| | その他 | 20% | 授業における積極的態度を評価する。 |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | |
| 使用しない(必要に応じてプリント資料を配布する) | コーチング学への招待、日本コーチング学会(編)、大修館、ISBN:978-4-469-26819-5 | | |
| その他 | | | |
| 授業形態:単独 | | | |
| ワークや課題の内容に関して、適宜助言・解説を行う。 | | | |

| | | | |
|--|---|--|----------------------|
| 授業科目名 | スポーツ運動学特講 | 配当年次 | 1・2 |
| 担当教員 | 後藤 豊 | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ② 武道、体育及びスポーツにおける高度で専門的な学術の理論及び応用力を有している。 | | |
| 授業概要 | | 授業計画(テーマ) | |
| <p>本講義では、物質身体を機械論的に分析する従来の運動研究でなく、動感身体における運動発生を発生目的論的に分析する「発生目的論的運動学」、すなわち金子の「発生運動学」について講義を進める。</p> <p>具体的には、運動モルフォロジーに基づいたマイネルの「スポーツ運動学」における運動学習論、運動観察論、運動質論について概説し、更に「発生運動学」における創発身体知、促発身体知の構造について、解説する。そこでは実践との関連性の理解が求められ、更に運動学習、運動指導へ応用するための方法論について検討がなされる。</p> | | <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動学の概念と目的 2. 「スポーツ運動学」の成立と展開 3. 運動学習論の概要 4. 運動観察論の概要 5. 運動質論の概要 6. 「発生運動学」の成立と展開 7. 「発生運動学」の問題領域 8. 創発身体知の構造 9. 始原身体知の領域 10. 形態化身体知の領域 11. 洗練化身体知の領域 12. 促発身体知の構造 13. 観察分析と交信分析の方法論 14. 代行分析の方法論 15. 処方分析の方法論 | |
| 到達目標 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・「発生運動学」に基づいた運動研究の方法を理解し、実践に応用できる。 ・学習内容を運動学習、運動指導の実践場面に応用できる。 | | | |
| 受講・学習上のアドバイス | | 評価方法 | |
| <p>事前学習(2h)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講する授業のキーワードの意味を調べ、各種スポーツ種目の運動経験から、その内容に該当する事柄を抜き出し、関連性を調べておく。 <p>事後学習(2h)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自らの運動学習、運動指導経験を振り返り、当該授業で提示された様々な問題点を確認し、その改善点についてレポートに纏める。 | | 評価項目 | 割合 |
| | | 試験 | 0% |
| | | レポート | 50% |
| | | 平常点 | 50% |
| | | | 授業毎に提出された課題レポートを評価する |
| | | | 授業毎の理解度を評価する |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | |
| 必要に応じて印刷物を配布する。 | | 「身体知の形成(上)」金子明友著、明和出版、978-4901933087 「身体知の形成(下)」金子明友著、明和出版、978-4901933094 | |
| その他 | | | |
| 課題レポートについては、授業において解説する。 授業形態: 単独 | | | |

| | | | |
|---|---|---|-----|
| 授業科目名 | 体育科教育法特講 | 配当年次 | 1・2 |
| 担当教員 | 釜崎 太 | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ② 武道、体育及びスポーツにおける高度で専門的な学術の理論及び応用力を有している。 | | |
| 授業概要 | | 授業計画(テーマ) | |
| <p>・「学び」を実現させる体育の授業とはいかなるものか。優れた体育の授業実践を歴史的に追いながら、それらを越える「学び」の授業の可能性について議論したい。学生の積極的な発言に期待している。</p> | | <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクションー授業の目的・概要・評価とセルフアサーションー 2. ボールの授業に考える体育・身体教育・スポーツ 3. 甲子園野球にみる身体教育のメディアとしてのスポーツ 4. 身体のプロگرام化とふたつの教室ー「勉強」から「学び」へー 5. めあて学習とは何であったか 6. グループ学習とは何であったか 7. 輝ける感性体験の交流と身体知 8. 身体教育と反省的实践 9. 反省的实践家としての教師の実践的指導力と身体教育 | |
| 到達目標 | | 10. 佐々木賢太郎の体育実践を読み直す | |
| <p>・アクティブラーニングを含め、学校の授業実践の捉え方は「勉強」から「学び」の方向へと変化してきた。本講義では、体育における「学び」とは何かについて理解してもらいたい。</p> | | <ol style="list-style-type: none"> 11. 運動部活動の諸問題 12. 運動部活動の再定義1ードイツのスポーツクラブとの比較からー 13. 運動部活動の再定義2ー新しい公共の担い手としての学校ー 14. 学校の再定義ー身体教育から「学びの共同体」へー 15. 授業の振り返りとミニレポート | |
| 受講・学習上のアドバイス | | 評価方法 | |
| <p>・体育、スポーツ、学校についての考え方の再構築を目指す。学校体育の授業実践だけではなく、広い視野で授業内容について考えてほしい。 事前学習(2h) 参考図書の熟読。 事後学習(2h) 配布した資料を中心に理解を深めてもらいたい。</p> | | 評価項目 | 割合 |
| | | 試験 | 0% |
| | | レポート | 50% |
| | | 平常点 | 50% |
| | | <p>授業を振り返って、授業時間内にミニレポートを作成する。授業内容の理解度と論理的表現を重視する。</p> <p>授業の中での発表・討論の内容と積極性について評価する。</p> | |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | |
| 必要に応じて資料を配布する。 | | 教育における身体知研究序説、樋口聡編著、978-4-86413-100-1 | |
| その他 | | | |
| 授業形態: 単独 | | | |

| | | | | |
|---|---|---|------|--------------------------------|
| 授業科目名 | 保健科教育法特講 | | 配当年次 | 1・2 |
| 担当教員 | 釜崎 太 | | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ② 武道、体育及びスポーツにおける高度で専門的な学術の理論及び応用力を有している。 | | | |
| 授業概要 | | 授業計画(テーマ) | | |
| <p>・「学び」を実現させる保健の授業とはいかなるものか。優れた保健の授業実践例を参照しながら、それらを越える「学び」の授業の可能性について議論したい。学生の積極的な発言に期待している。</p> | | <ol style="list-style-type: none"> 1. イントロダクションー授業の目的・概要・評価とセルフアサーションー 2. 「学び」とは何かー技術的実践と反省的実践ー 3. 体育理論の授業づくりと学び 4. オリンピックの授業づくりと学び1ー環境教育としてのオリンピックー 5. オリンピックの授業づくりと学び2ー平和教育としてのオリンピックー 6. 「健康と自分の体」の授業づくりと学び 7. 「生活習慣と行動の変容」の授業づくりと学び 8. 「薬物・ギャンブル依存症」の授業づくりと学び 9. 「災害・安全と生きる力」の授業づくりと学び | | |
| 到達目標 | | <ol style="list-style-type: none"> 10. 「食育」の授業づくりと学び 11. 「エイズ教育・性教育」の授業づくりと学び 12. 性教育に見るジェンダー問題1ー性欲教育の時代ー 13. 性教育に見るジェンダー問題2ー純潔教育の時代ー 14. 性教育に見るジェンダー問題3ーヒューマン・セクシャリティ教育の時代ー 15. 授業の振り返りとミニレポート | | |
| 受講・学習上のアドバイス | | 評価方法 | | |
| <p>・保健の授業についての考え方の再構築を目指す。 事前学習(2h) 参考図書熟読。 事後学習(2h) 配布した資料を中心に理解を深めてもらいたい。</p> | | 評価項目 | 割合 | 評価基準等 |
| | | 試験 | 0% | |
| | | レポート | 80% | プレゼンテーション |
| | | 平常点 | 20% | 毎授業の中での取り組み姿勢 (積極性、発言、質疑応答) |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | |
| 必要に応じて資料を配布する。 | | 「授業書」方式による保健の授業、保健教材研究会編 | | |
| その他 | | | | |
| 授業形態: 単独 | | | | |

| | | | | |
|--|--|---|------|------------------|
| 授業科目名 | 武道・スポーツ安全指導論特講 | | 配当年次 | 1・2 |
| 担当教員 | 立木 幸敏 | | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ②武道、体育及びスポーツにおける高度で専門的な学術の理論及び応用力を有している。 | | | |
| 授業概要 | | 授業計画(テーマ) | | |
| <p>近年、学校管理下のスポーツ活動での事故が問題になっている。 特に武道系部活動においては「熱中症」や「頭部外傷」の予防、事故対応が大変重要である。さらに頸部外傷の問題も指摘されており、武道・スポーツの指導者はEvidenceに基づいた知識が大変重要である。 また高層化する危険な組体操や水泳における飛び込みなど、マスメディアを通じて、大きな社会問題になっている。 大学院を修了する高度な知識を持った武道・スポーツ指導者はRisk managementの観点から適切な指導、運営ができることが望まれる。 本講義では、頭頸部外傷、熱中症の発生機序、ならびに予防方法、さらには応急処置までを包括して理解し、他者へ十分な説明(教育)が出来る能力を獲得することを目指したい。</p> | | <ol style="list-style-type: none"> 1. 武道・スポーツにおける安全指導の重要性 2. Risk Management と Crisis Management 3. 重症頭部外傷の事故事例にみる学校安全の問題点 4. 武道・スポーツにおける頭部外傷を理解する 5. 武道・スポーツにおける脳振盪の最新知見 6. 頭部・頸部外傷のファーストエイド 7. 熱中症の事故事例と発生機序 8. 熱中症の最新知見から予防法を考える 9. 学校管理下における事故事例 -組体操事故から考える- 10. 学校管理下における事故事例 -水泳飛び込み事故から考える- 11. 教育現場における指導死の問題を考える 12. 自然災害と部活動運営を考える 13. 論文抄読① 14. 論文抄読② 15. 受講生による安全指導のプレゼンテーション | | |
| 到達目標 | | | | |
| Evidenceに基づいた武道・スポーツにおける安全指導を理解し、他者へ十分な説明(教育)が出来る。 | | | | |
| 受講・学習上のアドバイス | | 評価方法 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の事前学習、事後学習によって理解をすること。 ・Evidenceに基づいた議論が可能になること。 ・能動的な受講を望む。 <p>事前学習: 配布された資料を基に各授業単元を予習すること(2h) 事後学習: 授業で実施した内容を配付資料を基に復習すること(2h)</p> | | 評価項目 | 割合 | 評価基準等 |
| | | 試験 | 20% | 安全指導のプレゼンテーション能力 |
| | | レポート | 20% | 講義に関するレポート内容 |
| | | 平常点 | 60% | 文献を読み理解し、討論できる能力 |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | |
| 適宜紹介 必要に応じて資料を配付する | | | | |
| その他 | | | | |
| 授業形態: 単独 | | | | |

| | | | |
|--|--|------|--|
| 授業科目名 | 武道・スポーツマネジメント演習 I | 配当年次 | 1 |
| 担当教員 | 奥山 秀雄、山本 利春、笠原 政志 | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ③ コミュニケーション能力、リーダーシップ、チャレンジ精神を持ち、広く社会に寄与することができる。 | | |
| 授業概要 | 授業計画(テーマ) | | |
| <p>本授業では、将来の職業や研究領域とも関連する可能性のある活動について、企画(立案)段階から運営(指導)、評価、及び報告に至る一連の段階に携わる体験を通して、実践力の育成を図ることを目的とする。また、本授業の指導については複数教員がチームとしてあたることを原則とし、教員が実習現場と密接に関わることができることがもう一つの条件となる。尚、一日だけの単発事業等は範疇に含めない。</p> <p>これらのことを前提条件として、例としては、学校教育現場での教育実習、競技スポーツ現場でのコーチ・トレーナー体験、健康・生涯スポーツ現場での各種サポート体験、武道・スポーツ団体・施設等でのインターンシップ、などがあげられる。</p> <p>実践活動の実施にあたっては、企画書を作成してプレゼンテーションで承認を受けることを必要とする。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 事前演習:企画書の検討、作成 事前演習:企画プレゼンテーションの検討、作成 事前演習:企画プレゼンテーション 事前の渉外活動、事前準備、打ち合わせ、等 実習第1日目 実習第2日目 実習第3日目 実習第4日目 実習第5日目 報告書作成 報告プレゼンテーションの検討 報告プレゼンテーションの準備 報告プレゼンテーション①報告 報告プレゼンテーション②ディスカッション まとめ 及び 評価 | | |
| 到達目標 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 企画書に基づいた活動が展開できる。 実践活動の振り返り、報告書の作成、プレゼンテーションを実施できる。 | | | |
| 受講・学習上のアドバイス | 評価方法 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 実社会や実践の場における活動が中心であるため、責任感と積極性を十分持って授業に臨み、取り組むこと。 事前学習(2h) 実習のための企画立案、実地調査、交渉等々の準備に努める。 事後学習(2h) 企画や実施内容の検証、成果報告書の作成やプレゼンテーション等、事後の処理に努める。 | 評価項目 | 割合 | 評価基準等 |
| | 試験 | 100% | 企画書、企画プレゼンテーション、企画遂行、報告プレゼンテーション等の一連の活動を評価 |
| | レポート | 0% | |
| | 平常点 | 0% | |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | |
| 必要に応じて資料等を配布する。 | 特になし | | |
| その他 | | | |
| 授業形態「単独」、「複数」 | | | |

| | | | |
|---|--|------|--|
| 授業科目名 | 武道・スポーツマネジメント演習Ⅱ | 配当年次 | 2 |
| 担当教員 | 山本 利春、笠原 政志 | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ③ コミュニケーション能力、リーダーシップ、チャレンジ精神を持ち、広く社会に寄与することができる。 | | |
| 授業概要 | 授業計画(テーマ) | | |
| <p>本授業では、修士論文研究または特定課題研究の研究計画書に基づく研究活動として、企画(立案)段階から運営(指導)、評価、及び報告に至る一連の段階に携わる体験を通して、実践力及び指導能力の育成を図ることを目的とする。また、本授業の指導については複数教員がチームとしてあたることを原則とし、教員が体験現場と密接に関わることができることもう一つの条件となる。尚、一日だけの単発事業等は範疇に含めない。</p> <p>これらのことを前提条件として、例としては、学校教育現場でのスポーツ運営体験、競技スポーツ現場でのコーチ・トレーナー体験、健康・生涯スポーツ現場での各種サポート体験、武道・スポーツ団体・施設等でのインターンシップ、などがあげられる。</p> <p>実践活動の実施にあたっては、企画書を作成してプレゼンテーションで承認を受けることを必要とする。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 事前演習:企画書の検討、作成 事前演習:企画プレゼンテーションの検討、作成 事前演習:企画プレゼンテーション 事前の渉外活動、事前準備、打ち合わせ、等 実習第1日目 実習第2日目 実習第3日目 実習第4日目 実習第5日目 報告書作成 報告プレゼンテーションの検討 報告プレゼンテーションの準備 報告プレゼンテーション①報告 報告プレゼンテーション②ディスカッション まとめ 及び 評価 | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> 研究課題に基づく企画を立案し、企画書に基づいた活動が展開できる。 実践活動の実績・成果を考察し、研究成果に反映することができる。 | | |
| 受講・学習上のアドバイス | 評価方法 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> 実社会や実践の場における活動が中心であるため、責任感と積極性を十分持って授業に臨み、取り組むこと。 事前学習(2h) 実習のための企画立案、実地調査、交渉等々の準備に努める。 事後学習(2h) 企画や実施内容の検証、成果報告書の作成やプレゼンテーション等、事後の処理に努める。 | 評価項目 | 割合 | 評価基準等 |
| | 試験 | 100% | 企画書、企画プレゼンテーション、企画遂行、報告プレゼンテーション等の一連の活動を評価 |
| | レポート | 0% | |
| | 平常点 | 0% | |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | |
| 必要に応じて資料等を配布する。 | 特になし | | |
| その他 | | | |
| 授業形態「複数」 | | | |

| | | | | |
|---|---|---|------|---|
| 授業科目名 | 武道・スポーツ特別研究 I | | 配当年次 | 1 |
| 担当教員 | 田中 守、小西 由里子、山本 利春、荒川 裕志、笠原 政志、刈谷 文彦、前川 直也 | | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ④ 専門分野で修得した知識や技能に基づき、科学的・学問的な視点から事象を捉え、新たな課題を発見・解決し、未来に向かって創造的知見を発信できる能力を有している。 | | | |
| 授業概要 | | 授業計画(テーマ) | | |
| <p>武道・スポーツの研究に取り組む上で不可欠な研究倫理を含む研究者としての心得、基本姿勢及び研究を推進する上での基礎知識を学修し、研究能力の基礎を身につける。その上で研究指導教員の指導に基づき、各自の研究領域の課題に関する検証や先行研究の文献講読等を行い、武道・スポーツの専門分野の研究の進め方を修得する。並行して履修する武道・スポーツ特講 I における武道・スポーツの幅広い領域の基礎知識をふまえ自らの問題意識を焦点化し、研究課題を選定して研究テーマを決定する。</p> | | <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究者の心得(問題意識・探求心・論文作成方法・研究環境の活用) 2. 研究者の心得(研究倫理eラーニングプログラム) 3. 研究課題(武道・スポーツ)に関する現状把握①一般的背景 4. 研究課題(武道・スポーツ)に関する現状把握②関連研究 5. 研究課題(武道・スポーツ)に関する周辺状況①一般的背景 6. 研究課題(武道・スポーツ)に関する周辺状況②関連研究 7. 研究課題(武道・スポーツ)に関する課題の抽出と課題設定①一般的背景 8. 研究課題(武道・スポーツ)に関する課題の抽出と課題設定②関連研究 9. 研究課題(武道・スポーツ)に関する課題解決の基本的事項 10. 研究課題(武道・スポーツ)に関する課題解決の具体的事項 11. 先行研究(武道・スポーツ)における課題設定と課題解決法の検証① 12. 先行研究(武道・スポーツ)における課題設定と課題解決法の検証② 13. 先行研究(武道・スポーツ)における課題設定と課題解決法の検証③ 14. 先行研究(武道・スポーツ)における課題設定と課題解決法の検証④ 15. 研究テーマ、調査・実験方法の設定、プレゼンテーションスキルの修得・準備 | | |
| 到達目標 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・研究課題に取り組む前段階に行うべき基本的事項について理解し、取り組むことができる。 ・論文作成の流れを理解できる。 ・武道・スポーツに関わる課題を幅広く理解し、問題意識を焦点化できる。 ・修士論文あるいは特定課題研究の研究テーマを設定する。 | | | | |
| 受講・学習上のアドバイス | | 評価方法 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・研究課題に対する自己の問題意識を明確にするとともにし、指導教員の指示・指導の意味を深く理解しつつ活動に取り組むこと。 <p>事前学習(2h)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマに関連する情報の収集、及び先行研究の検索に努める。 <p>事後学習(2h)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容を踏まえ、各自の問題意識整理し、研究テーマの明確化に努める。 | | 評価項目 | 割合 | 評価基準等 |
| | | 試験 | 0% | |
| | | レポート | 0% | |
| | | 平常点 | 100% | <ul style="list-style-type: none"> ・授業進行に伴う一つひとつの課題の達成度 ・授業に取り組む姿勢(発言、意見、質問等) |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | |
| 必要に応じて提示する。 | | 必要に応じて提示する。 | | |
| その他 | | | | |
| 授業形態「単独」 | | | | |

| | | | | |
|--|---|------|---|---|
| 授業科目名 | 武道・スポーツ特別研究Ⅱ | | 配当年次 | 1 |
| 担当教員 | 田中 守、小西 由里子、山本 利春、荒川 裕志、笠原 政志、刈谷 文彦、前川 直也 | | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ④ 専門分野で修得した知識や技能に基づき、科学的・学問的な視点から事象を捉え、新たな課題を発見・解決し、未来に向かって創造的知見を発信できる能力を有している。 | | | |
| 授業概要 | 授業計画(テーマ) | | | |
| <p>専門科目で学修した各自の専門領域の理論をさらに深く理解するため、研究指導教員の設定する研究論文の抄読を行い、武道・スポーツの専門領域に関する研究方法を含む専門的知識を修得する。</p> <p>さらに武道・スポーツ特別研究Ⅰをふまえ各自設定した研究テーマに関連する国内外の文献講読及び先行研究を探索・検証し、研究テーマに関する専門的知識を深める。また、研究テーマに基づく予備調査・予備実験の計画を策定し調査・実験の実施、結果の分析を行なう。修士論文・特定課題研究の抄録案を作成し、プレゼンテーションを行なう。</p> | <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題(武道・スポーツ)に関する論文抄読① 2. 研究課題(武道・スポーツ)に関する論文抄読② 3. 研究課題(武道・スポーツ)に関する論文抄読③ 4. 研究課題(武道・スポーツ)に関する論文抄読④ 5. 研究課題(武道・スポーツ)に関する論文抄読⑤ 6. 研究テーマに関連する文献講読及び先行研究の探索・検証① 7. 研究テーマに関連する文献講読及び先行研究の探索・検証② 8. 研究テーマに関連する文献講読及び先行研究の探索・検証③ 9. 研究テーマに関連する文献講読及び先行研究の探索・検証④ 10. 研究テーマに関連する文献講読及び先行研究の探索・検証⑤ 11. 研究テーマに関連する文献講読及び先行研究の探索・検証⑥ 12. 予備調査・予備実験の予備研究計画書策定 13. 予備調査・予備実験の実施・結果分析 14. 研究テーマに基づく修士論文・特定課題研究の抄録案の作成 15. プレゼンテーションスキルの修得及びプレゼンテーションの検証 | | | |
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・武道・スポーツ関係の多くの論文に触れ、研究テーマに関連する国内外の論文選定や先行研究の探索・検証を行なうことができる。 ・専門分野の論文を理解し、資料を収集に基づき予備研究計画書を作成できる。 ・研究テーマに基づく抄録案を作成できる。 ・抄録案のプレゼンテーションができる。 | | | |
| 受講・学習上のアドバイス | 評価方法 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・関連文献の収集及び分析に力を注ぐこと。 ・関連テーマに関する専門家と話したりセミナー等に参加して、最新情報の入手にも努めること。 <p>事前学習(2h)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマに関する情報の収集、及び先行研究の検討に努める。 <p>事後学習(2h)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義内容を踏まえ、研究手法の確立に努める。 | 評価項目 | 割合 | 評価基準等 | |
| | 試験 | 0% | | |
| | レポート | 0% | | |
| | 平常点 | 100% | <ul style="list-style-type: none"> ・授業進行に伴う一つひとつの課題の達成度 ・授業に取り組む姿勢(発言、意見、質問等) | |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | | |
| 必要に応じて提示する。 | 必要に応じて提示する。 | | | |
| その他 | | | | |
| 授業形態「単独」 | | | | |

| | | | | |
|---|---|--|------|---|
| 授業科目名 | 武道・スポーツ特別研究Ⅲ | | 配当年次 | 2 |
| 担当教員 | 田中 守、小西 由里子、山本 利春、荒川 裕志、笠原 政志、刈谷 文彦、前川 直也 | | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ④ 専門分野で修得した知識や技能に基づき、科学的・学問的な視点から事象を捉え、新たな課題を発見・解決し、未来に向かって創造的知見を発信できる能力を有している。 | | | |
| 授業概要 | | 授業計画(テーマ) | | |
| <p>武道・スポーツ特別研究Ⅰ・Ⅱをふまえて研究計画書に基づく本調査・本実験を実施し、結果データ分析を行い、前期終了時に修士論文または特定課題研究報告に向けた中間報告書を作成し、進捗状況及び修士論文完成に向けての見通しや課題等を踏まえた発表を行なう。</p> | | <ol style="list-style-type: none"> 1. 本調査・本実験の研究計画書の策定 2. 本調査・本実験の実施① 3. 本調査・本実験の実施② 4. 本調査・本実験の実施③ 5. 研究課題に関する調査・実験時に発生する事項の抽出 6. 研究課題に関する調査・実験時に発生する事項の再検討 7. 研究課題に関するデータの精査・分析 8. 研究課題に関するデータ分析結果の考察 9. 研究課題に関するデータの再実験・調査に関する検討 10. 研究課題に関するデータの再実験・調査の実施 11. 研究課題に関するデータの再実験・調査結果の分析 12. 修士論文・特定課題研究の中間報告書の作成① 13. 修士論文・特定課題研究の中間報告書の作成② 14. 修士論文・特定課題研究の中間報告書の完成 15. プレゼンテーションの検証 | | |
| 到達目標 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・本調査・本実験等を実施し、結果分析、考察することができる。 ・修士論文または特定課題研究としての中間報告書を完成させることができる。 ・修士論文中間報告書についてプレゼンテーションができる。 | | | | |
| 受講・学習上のアドバイス | | 評価方法 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・統計学を十分理解し、分析結果の信憑性を検証し、客観的に解釈できるようにすること。 <p>事前学習(2h)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究計画に基づく調査や実験等の計画・準備に努める。 <p>事後学習(2h)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査や実験等の処理、検証に努める。 | | 評価項目 | 割合 | 評価基準等 |
| | | 試験 | 0% | |
| | | レポート | 0% | |
| | | 平常点 | 100% | <ul style="list-style-type: none"> ・授業進行に伴う一つひとつの課題の達成度 ・授業に取り組む姿勢(発言、意見、質問等) |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | |
| 必要に応じて提示する。 | | 必要に応じて提示する。 | | |
| その他 | | | | |
| 授業形態「単独」 | | | | |

| | | | | |
|---|---|--|------|---|
| 授業科目名 | 武道・スポーツ特別研究Ⅳ | | 配当年次 | 2 |
| 担当教員 | 田中 守、小西 由里子、山 本利春、荒川 裕志、笠原 政志、刈谷 文彦、前川 直也 | | 単位数 | 2 |
| ディプロマポリシーとの関連性 | ④ 専門分野で修得した知識や技能に基づき、科学的・学問的な視点から事象を捉え、新たな課題を発見・解決し、未来に向かって創造的知見を発信できる能力を有している。 | | | |
| 授業概要 | | 授業計画(テーマ) | | |
| <p>武道・スポーツ特別研究Ⅲの中間発表での講評・指摘等を踏まえ、追加調査・資料収集及び考察を行い、研究指導教員及び副研究指導教員による研究指導のもと修士論文または特定課題研究報告書を作成し、完成させる。</p> | | <ol style="list-style-type: none"> 1. 研究課題に関する本調査・実験の追加・修正の検討 2. 研究課題に関する資料の追加調査・収集 3. 研究課題に関する追加調査・収集結果の分析 4. 研究課題に関するデータ分析結果の考察 5. 修士論文・特定課題研究の最終報告書の作成に関する検討① 6. 修士論文・特定課題研究の最終報告書の作成に関する検討② 7. 修士論文・特定課題研究の最終報告書の作成に関する検討③ 8. 修士論文・特定課題研究の最終報告書の作成に関連した作業の課題抽出と反省 9. 修士論文・特定課題研究の最終報告書の作成① 10. 修士論文・特定課題研究の最終報告書の作成② 11. 修士論文・特定課題研究の最終報告書の作成③ 12. 修士論文・特定課題研究の最終報告書の作成④ 13. 修士論文・特定課題研究の最終報告書の作成⑤ 14. 修士論文・特定課題研究の最終報告書の最終確認・完成 15. プレゼンテーションの検証 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・修士論文または特定課題研究を完成することができる。 ・修士論文に関する知識及び周辺知識を有し、当該事項を説明することができる。 ・修士論文または特定課題研究の内容をプレゼンテーションでできる。 | | | | |
| 受講・学習上のアドバイス | | 評価方法 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・論文・最終報告書の作成に向けて、分かりやすい図表作成やプレゼンテーション資料の作成ができるように、PCのソフトの活用方法を習得しておくこと。 ・論文・最終報告書の構成をフローチャート等に示せるようにしておくこと。 <p>事前学習(2h)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究計画に基づいて、資料やデータの管理・分析・考察を進める。 <p>事後学習(2h)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・修士論文、特定課題研究の最終報告書の作成に努める。 | | 評価項目 | 割合 | 評価基準等 |
| | | 試験 | 0% | |
| | | レポート | 0% | |
| | | 平常点 | 100% | <ul style="list-style-type: none"> ・授業進行に伴う一つひとつの課題の達成度 ・授業に取り組む姿勢(発言、意見、質問等) |
| 教科書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | 参考書(書名、著者、出版社、ISBNコード、備考) | | |
| 必要に応じて提示する。 | | 必要に応じて提示する。 | | |
| その他 | | | | |
| 授業形態「単独」 | | | | |

国際武道大学 大学院

武道・スポーツ研究科